

韓国の歴史教科書資料集 —社会科・世界史編—

2010年3月1日

筑波大学大学院教授 古田博司

目次

一、「東アジア文化圏」記述に関する資料	2
1. 教育課程	
2. 中学校 社会科教科書	
3. 高等学校 世界史教科書	
二、「植民地」記述に関する資料	21
1. 中学校社会科教科書	
2. 高等学校 世界史教科書	
三、附録	30
1. マルクス唯物史観による資本主義萌芽論	
2. 興味深い記述	

資料提供 韓国教育開発院（所在地 韓国瑞草区牛眠洞 92-6）

以下の資料は、日本の学習指導要領に該当する韓国教育課程に沿って掲載される。
課程期区分は韓国教育開発院に従う。

第一次教育課程期	1955—1963
第二次教育課程期	1963—1973
第三次教育課程期	1973—1981
第四次教育課程期	1981—1987
第五次教育課程期	1987—1992
第六次教育課程期	1992—1998
第七次教育課程期	1998—

次に比較のため、日本の学習指導要領の第一期から第七期までを掲げる。

第一期	（1946年～1952年 検定教科書改訂年度は教科・発行者により異なる）
第二期	（1953年～1961年 検定教科書改訂年度は教科・発行者により異なる）
第三期	（高等学校学習指導要領 1960年告示、1960.10 施行、1963年度教科書使用）
第四期	（高等学校学習指導要領 1970年告示、1973.4 施行、1973年度教科書使用）
第五期	（高等学校学習指導要領 1978年告示、1982.4 施行、1982年度教科書使用）
第六期	（高等学校学習指導要領 1989年告示、1994.4 施行、1994年度教科書使用）
第七期	（高等学校学習指導要領 1999年告示、2003.4 施行、2003年度教科書使用）

一、「東アジア文化圏」記述に関する資料

1. 教育課程

資料

●第三次教育課程（1973—1981）

・第4節 社会科（中学校課程、以下同じ—訳者） ア．目標…（2）学年目標…〈第2学年〉（ア）人類と文化との関係、文化形成と変化過程を理解させ、民族文化の特質とその将来に対する関心を深めさせる。…（ウ）世界の中の韓国の地位を正しく認識させ、国際協調と平和に貢献すべき態度を養う。（官報 第6540号（ク3）、1973.8.31.金曜日、p.47）

・IV. 世界史（高等学校課程、以下同じ—訳者）…2. 内容…ウ. 多様な世界の展開 春秋戦国時代から元代に至るまでの中国文化の変遷と共に、アジア各地域の発展と東西の文化交流を理解させる。（1）中国文化の形成と発展（2）インド宗教文化の拡大（3）東北アジアの発展（4）イスラム世界とその文化（官報 第6941号、1975.1.7.火曜日、pp.13-14）

●第四次教育課程（1981—1987）

・社会科 …イ. 学年目標及び内容〈1学年〉…2) 内容 ア) 人間と社会 …特に国家の隆盛が個人の幸福と直接つながっていることを覚らせる。…〈2学年〉…2) 内容…オ) アジア各国の昔の社会の姿を考察し、各々の特色と共に相互関連性を把握させる。（1）東北アジアの発展（2）東南アジアとインド（3）イスラム世界とその文化（4）東西文化の交流（文教部告示442号、1981.12.31、別冊3、『中学校教育課程』大韓教科書株式会社、1982.1.18、p.31、p.35）

・世界史 ア) 目標…3) 様々な文化圏がもつ特殊性と共通性を理解し、わが国の世界史的位置を認識させる。…イ) 内容…2) アジア世界の展開 隋・唐時代に至るまでの発展過程とその特性を理解し、アジアの他の地域の文化発展と互いに比較し、東西の文化交流について調べさせる。ア) 中国の古代文化 イ) 東アジア文化圏の成立 ウ) インドと東南アジア社会の変化 エ) イスラム文化と内陸アジア社会（文教部告示442号、1981.12.31、別冊4、『高等学校教育課程』大韓教科書株式会社、1982.1.18初版、1983.3.25五版、pp.47-48）
→日本に遅れること10年、「東アジア文化圏」は高等学校世界史の教育課程となった。かつて日本の学習指導要領には、1973年から2002年まで「東アジア文化圏の形成と発展」という項目があった。

●第五次教育課程（1987—1992）

・社会科 イ. 学年目標及び内容〈1学年〉…2) 内容 エ) アジア及びアフリカの生活 アジア及びアフリカの各地域の特性を理解させ、これらの地域とわが国との関係を分らせる。（1）世界の各地域（2）東北アジア地域の生活（3）東南及び南部アジア地域の生活…キ) アジア社会の成長 秦・漢代から隋・唐代までの中国及びアジア各地域で活発に

展開した各民族の成長過程を調べ、彼らが発展させた文化の共通点と多様性を把握させる。

(1) 中国古代帝国の成立 (2) 中国社会の発展 (3) 東北アジア社会の発展 (4) インド及び東南アジアの古代文化 (文教部告示第 87-7 号、1987. 3. 31、『中学校教育課程』大韓教科書株式会社、1987. 4. 30、p. 47)

・ 4・5 世界史 ア. 目標 1) 世界史の流れを各時代と文化圏の特性を中心に把握し、これを総合的に理解させる。… 3) 世界史を通じ、韓国史の特性と普遍性を認識できる能力を養わせる。… イ. 内容… 3) アジア世界の展開 東アジア文化圏、インド文化圏、イスラム文化圏の形成と発展過程を把握し、各文化圏の特性と相互間の交流を認識させる。

(文教部告示第 88-7 号、1988. 3. 31、『高等学校教育課程』大韓教科書株式会社、1988. 5. 10、pp. 82-83)

●第六次教育課程 (1992—1998)

・ 社会… 3. 内容… イ. 学年別内容〈1 学年〉… (6) アジア文化圏の形成 アジア各地域で活発に展開する諸民族の成長過程と彼らが作り上げた文化的特色を把握させ、これら各文化圏の共通点と差異点を比較、理解するようにする。… (イ) 東アジア文化圏の形成と変革—遊牧民族の中国侵入、隋・唐帝国と貴族社会、東アジア文化圏、征服王朝…

〈2 学年〉ヨーロッパ文化圏の形成 古代地中海世界の文化的特性と中世ヨーロッパ世界の形成および変化過程を把握させることにより、西洋社会の文化的起源を理解するようにする。(教育部告示 第 1992-11 号、net に依る) →「東アジア文化圏」は中学校社会科の教育課程となった。

・ 5・6. 世界史… 2. 目標 ア. 世界史を文化圏と主題中心に把握し、歴史の流れを体系的かつ総合的に理解させる。… ウ. 世界史を通じ、韓国史の特殊性と、世界史的普遍性を認識させる。… 3. イ. 内容… (2) 古代世界の文化 古代世界の形成過程と古代人の日常生活を把握させ、その文化的特性を文化圏別に比較し理解させる。… 4. 方法… ウ. 世界史発展の普遍的法則と多様な文化を、比較の準拠とし、韓国史と韓国文化の特性を認識できるように指導する。(第六次高等学校教育課程 (1). hwp)

●第七次教育課程 (1998—)

・ 3、社会 …学年別内容、… 7 学年、…(8)人間社会と歴史…(ウ)発展と変化 ①人間が周辺との与件に適応しつつ多様な文化圏を形成し、互いに他の文化と相互交流し文化を発展させてきたことを理解する。…(10)アジア社会の発展と変化 近代以前のアジアは東アジア文化圏、西アジア文化圏、南アジア文化圏などが存在し、その文化要素が現在までも該当地域の人々の生活と価値観までも影響を及ぼしていることを理解し、文化と価値の多様性を尊重する態度を育てる。(ア)東アジア文化圏の形成と伝統社会の発展 …③儒教と科挙制度が中国伝統社会に及ぼした影響を評価する。④東アジア文化圏の文化要素を列举し、その地域別展開様相を調査する。… (ウ) 西アジア文化圏の形成と発展…(教育部告示、第 1997-15 号『中学校教育課程(別冊 3)』大韓教科書、1998・8・10、pp. 86-88)

・ 8、世界史 I 性格、…さらに世界史学習を通して私たちは韓国史の特殊性と普遍性が

何かをより正確に把握するようになる。「地球村」という言葉に見られるように、今日の世界は国家が相互交流の次元を超え、全世界を生活圏とし、ひとつの場に束ねている。…Ⅲ、1 内容体系、…中世○東アジア文化圏、…2、領域別内容、…(3)アジア世界の拡大と東西交流、(ア)東アジア世界の形成と拡大、…③東アジア文化圏の成立とその核心的要素が何かを調べる。(教育部告示、第 1997-15 号『社会科教育課程(別冊 7)』日韓教育実践研究会誌、2002・3・1)

2. 中学校 社会科教科書

資料 (第六次の資料を欠く)

(1) 文教部著作、韓国教育開発院『中学校社会 3 (上)』国定教科書株式会社、初版 1981・3・1、二版 1982・3・1

「交通が不便だった昔にはアジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカなどの大陸は互いに地理的に離れていて、相互の交流が足りず、各々独特な文明圏と生活圏を成していた」(5 わが国と国際政治、p. 65)→これ以前に文化圏の語彙なし。

(2) 教育部著作、韓国教育開発院『中学校社会 3』大韓教科書株式会社、初版 1991・3・1、二版 1992・3・1

「文化属性が同じく表れる範囲を文化地域、または文化圏というが、これは文化要素や文化属性によって区分され、次第に変化する」「東洋文化地域はアジアの東部から南部に至る季節風地域であり、稲作が発達し、仏教徒、儒教徒、ヒンズー教徒、イスラム教徒が多く言語と人種などが複雑である」「アメリカ文化地域とオセアニア文化地域は、原住民の固有の文明がほとんど消滅し、地理上の発見時代以後移住したコーカサス人種により、ヨーロッパ文化地域の特徴が表れたところである」(Ⅶ世界の自然環境と住民生活、Ⅳ世界の人種と文化、世界の文化地域、pp. 240 - 241)→第五次教育課程。文化地域の図あり(略)。

(3) 2000・11・30 教育人的資源部検定、朴ヨンハン他 10 名著『中学校 社会 1』成地文化社、2002・3・1・初版、2007・3・1・五版)→ここから第七次教育課程

「歴史とは過去にあった事実だ。だが、過去に起こった事実がすべて歴史として記録されるのではない。歴史的事実とは、歴史家により選択され、主観的に記録された事実を指す」(Ⅷ人間社会と歴史、1 歴史と過去、1 歴史と歴史研究、「歴史的事実とは?」、p. 214)

(4) 2000・11・30 教育人的資源部、呉インソク他 12 名著『中学校社会 1』斗山、2002・3・1・初版、2007・3・1・六刷

「唐の発達したこの文化は東アジア全域に広がり共通した文化世界を形成した。これを東アジア文化圏と言うが、儒教、漢字、律令体制などを土台とする」(Ⅹ東アジア社会の発展と変化、2 東アジア文化圏の形成、②隋と唐の発展、「国際的文化と東アジア文化圏」、p. 247)

(5) 2000・11・30 教育人的資源部検定、車ギョンス他 11 名著『中学校社会 1』、教学社、2002・3・1・初版、2007・3・1・六版

「唐の国のときにこの漢字を通じ、中国の儒教、仏教、律令がわが国、日本、ベトナムに伝わり、東アジア文化圏を形成した」（10 アジア社会の発展と変化、1 東アジア文化圏の形成、8 日本古代国家の発展、「探究活動」、p. 280）

(6) 2000・9・18 教育人的資源部検定、李ジンソク他 11 名著『中学校社会 1』志学社、2001・3・1・初版、2007・3・1・二版

「そのひとつは儒教・仏教・漢字を基盤としている東アジア文化圏であり、…」(X アジア社会の発展と変化、p. 261)

(7) 2000・9・18 教育人的資源部検定、チョファリョン他 12 名著『中学校社会 1』金星出版社、2001・3・1・初版、2007・3・1・五版

「隋・唐以後中国の漢字、儒教、律令、仏教を共通とする東アジア文化圏が形成されたことは、隋・唐文化の国際性および仏教の普遍性ととも東アジアの諸民族が中国文化を自分の発展に利用する程度に成長していたために可能だった」（8 人間社会と歴史、3 発展と変化、1 文化圏の形成と交流、「固有文化と文化圏」、p. 248）

(8) 2000・11・30 教育人的資源部検定、黄ジェギ他 10 名著『中学校社会 1』、教学社、2002・3・1 初版、2007・3・1 六版

「中国や日本、モンゴルなどを旅行してみると、通りで会う人々がどの国の人か区分しにくく、通りの看板でも我々と似た漢字をたくさん見る。国別で使用する言葉が違うが漢字を使い仏教、儒教文化の伝統などの共通点があるために東部アジアは東アジア文化圏と呼ばれる」（V アジア及びアフリカの生活、1 経済が成長する東部アジア、1 多様な環境、「東部アジアの共通点は何か?」、p. 127）→モンゴルまでふくめた東アジア文化圏。東部アジアの地図あり（略）。

(9) 2000・11・30 教育人的資源部検定、黄ジェギ他 10 名著『中学校社会 1』、教学社、2002・3・1 初版、2007・3・1 六版

「続いて、唐の首都の長安には様々な宗教と外国人が集まり、国際的都市を形成した。同時に積極的な対外進出で中国の文化が広く伝播した。とくに新羅、渤海、ベトナム、日本などの東アジアの隣国に影響を及ぼし、東アジア文化圏が形成された」（X アジア社会の発展と変化、1 東アジア文化圏の形成、6 世界帝国唐と東アジア文化圏、p. 260）

(10) 2000・11・30 教育人的資源部検定、朴ヨンハン他 10 名著『中学校社会 1』成地文化社、2002・3・1・初版、2007・3・1・五版

「儒家思想は中国、わが国、日本を包含した東アジア文化圏で支配層になるために必須的に学ばねばならない知識だったし、漢文研究の対象だった。…一方、中国は 19 世紀から西洋に倒されることになったが、発展が遅れた原因を儒家思想のためだといい、‘孔子が死ねば中国は生きる’という言葉があらわれた。しかし日本は儒家思想のおかげで成長が早かったし、わが国もそのうちのひとつであり孔子思想を興さなければならないという主張もあらわれた」（X アジア社会の発展と変化、2 東アジア文化圏の形成、3 唐の社会と東アジア文化圏の形成、「探究活動 東アジア文化圏の共通点—儒家思想」、p. 267）

- (11) 2000・9・18 教育人的資源部検定、金フェモク他 7 名著『中学校社会 1』同和社、2001・3・1・初版、2007・3・1・七版

「統一新羅の仏教文化、渤海の制度と文物、日本とベトナムの律令体制はすべて唐の文化の影響を受けて発展したものである。このようにして唐をはじめとする東アジアの諸国は、漢字、儒教、仏教、律令などの共通要素を持つ一つの文化圏を形成した」(Xアジア社会の発展と変化、1 東アジア文化圏の形成と伝統社会の発展、3 東アジア文化圏の形成、「東アジア文化圏の形成」、p. 283)

【以下は日本の特殊性の記述】

- (12) 2000・9・18 教育人的資源部検定、李ジンソク他 11 名著『中学校社会 1』志学社、2001・3・1・初版、2007・3・1・二版

「幕府時代の日本は武士中心の社会であるため、科挙制度も無かったし、儒学も発達しえなかった。ただ、自己の節制や修練を重視する武士の趣向に合う禅宗仏教が発達した。室町幕府時代に醸成された〈資料 X-62、訳者注：龍安寺の石庭(京都)のことを指す〉の庭園で見られる小さく繊細で静かで奥ゆかしい雰囲気は日本文化の特性として残っている」(Xアジア社会の発展と変化、1 東アジア文化圏の形成と伝統社会の発展、8 幕府政権と日本の発展、「室町幕府時代に固有の文化が発展した」、p. 292)

- (13) 2000・11・30 教育人的資源部検定、黄ジェギ他 10 名著『中学校社会 1』、教学社、2000・3・1 初版、2007・3・1 六版

「日本は東アジア文化圏に属し中国の影響を強く受けたが、島国という地理的な位置のために独特な政治と文化を形成した。…9 世紀末から中国と交流が絶えて彼らだけの固有文化を発展させてきた」(Xアジア社会の発展と変化、1 東アジア文化圏の形成、7 東北アジア社会の形成、「日本の古代文化はどのように始まったか?」、pp. 261-262)

- (14) 2000・9・18 教育人的資源部検定、金ジュファン他 9 名著『中学校社会 1』中央教育振興研究所、2001・3・1・初版、2007・3・1・七版

「日本は武士階級が幕府という武士政権を誕生させ長い間支配層として君臨した。これは両班、紳士のような文人勢力が科挙を通じて支配層として成長してきたわが国、中国とは対照的だ。また日本の武士中心の封建制は日本の文化を中央集権式ではなく地方中心に発展させる原因となった。これにより日本では東アジアの他の国では見られない独特な文化が形成された」(Xアジア社会の発展と変化、2 東アジア伝統社会の変化と発展、3 東アジア伝統社会の変革、「探求活動」、p. 296)

3. 高等学校 世界史教科書

日本の山川出版社の世界史教科書(『世界史』『詳説世界史』系統)の東アジア記述から、①唐の制度の内容②唐の制度の伝播地域③唐文化の形成④唐文化の特徴⑤唐文人一覽⑥唐文化の伝播地域⑦文化圏設定の説明⑧不明瞭な地域⑨日本の独自性⑩特徴的なイデオロギー、その他。以上 10 項目の特徴を抽出できる。(この山川本のスタンダードと

しては、『アジア時報』2009.4所収の古田博司「韓国『正しい歴史認識』の虚構と戦略」p.36を参照のこと）以下、韓国の世界史教科書でこの規格に当てはまるものには、この10項目を付した。

資料

●第一次教育課程期（1955—1963）

(1) 曹佐鎬著『中等世界史』英志文化社、1959・3・25

「唐代には立派な文学者と芸術家が沢山出てきた。詩には中国の詩聖と呼ばれる李白、杜甫、白居易などが出て活躍し、文章では韓愈、柳宗元などが名文を書いた。…絵では呉道玄、李思訓父子と王維などが有名だが、特に王維は山水画に優れ、文人画の先駆者となった。…書では欧陽詢、顔真卿などの名手が出て芸術的な香り溢れる書を残した」（単元3アジア勢力の膨張とヨーロッパ社会の形成、第2中国の再統一、華麗なる学芸、pp.92-93）「唐代に華麗に花開いた中国文化は、周囲の各国に伝わり周囲の諸国の文化を育成するのに大きな影響を与えた。わが国の新羅文化と日本の奈良朝文化もその影響の下になされたものである。…新羅は唐と頻りに交流し、その文化を輸入し、仏教を中心とする立派な文化を創り上げた。…渤海も中国と交流し、唐の制度と文物を倣い立派な文化を創り上げたが、…日本は中国に遣唐使を送り唐の制度や文物を輸入し統一国家としての体制を整えた…隋は東突厥と結び、西突厥に対抗した。かくして唐の高宗のとき、ついに西突厥を滅ぼし、西域の地を支配することになった。…中国の西方チベットでは7世紀はじめに統一国家吐蕃がおこり、中国とインドの文化を輸入していたが、…雲南方面のチベット・ビルマ人も8世紀の中葉に南詔、後には大理という国を建て13世紀末に蒙古に滅ぼされるまで続いた」（同単元、同第2、周囲の諸民族、朝鮮・渤海・日本・突厥・吐蕃・南詔、pp.93-96）→著者は東京帝国大学文学部史学科卒、東国大学校教授・史学科科長。→唐文人一覽あり、李白・杜甫・白居易・韓愈・柳宗元・呉道玄・李思訓父子・王維・欧陽詢・顔真卿。新羅は唐文化、渤海・日本は制度・文物、吐蕃は文化輸入。日本の律令制への言及なし。不明瞭地域は、突厥・南詔。東アジア文化圏の語なし。

●第二次教育課程期（1963—1973）

(2) 文教部検定済、趙義ソル著『高等世界史』1964年版、章旺社、1964・1・10

「日本は隋・唐の制度を模倣し律令国家を作りあげ、奈良時代に至ってはその文化は唐の文化の模倣だった」（第2章中世ヨーロッパとアジア、第4節東アジア文化の発展、p.107）→著者は延世大学校教授。

(3) 洪スンチャン『人文系高等学校世界史』蛍雪出版社、1970・1・10

「唐の国家体制は隋の制度をそのまま受け継ぎ、いっそう完備したものである。この体制は朝鮮、渤海、日本、安南などの東アジア諸国に影響を与えた。唐の勢力がアジア全域に及ぶにつれて東西文化の交流が活発になり、唐の文化はアジア各地に広く拡がり、東アジア文化圏が形成された」（第II篇中世ヨーロッパとアジア、第3章東アジア文化圏の

成立と蒙古帝国、1 隋・唐の中国再統一、(2)唐帝国、p. 93)「唐代には北朝の剛健な文化と南朝の繊細で華麗な文化が融合して、内容を充実させまた東西交通の再開により西方と南方の要素が輸入され唐の文化は国際的な性格を帯びるようになった。のみならず、唐の文化は両隣はもちろん東アジア全域に影響を与え広く伝播するにつれて東アジア文化圏が形成された。この文化の特徴は貴族趣味と異国情緒にあり、それが文学と美術に最もよくあらわれている。…この時代に李白(701~762)、杜甫(712~770)、白居易(772~846)など詩聖が活躍し文章では韓愈(768~824)、柳宗元などが出て形式に囚われない達意の名文を書き名望が高まった。絵では呉道玄、李思訓父子(651~720)と王維(699~759)などが有名だった。とくに王維は山水画に優れ文人画の先駆者となった。書でも欧陽詢、顔真卿(708~84)などの名筆家が出た」(同篇同章同1、(4)東アジア文化圏の形成、pp. 96-97)「唐の国際的な文化は周辺の民族に影響を与えた。…チベットの吐蕃は唐、インド両文明を受け入れ7世紀初め中央アジア東部を支配したが、9世紀中葉に分裂してしまった。…新羅は唐と頻繁な交流を通じ、その文化を輸入し国家体制を整えた。…高句麗が滅びた後、その一族は東満州及び北朝鮮の地方に渤海国を建て10世紀まで続いた。彼らは唐の制度を模倣し国家体制を整え日本と交易した。日本も唐の制度を輸入し国家体制を整えた。…7世紀中葉、大和改新(大化の改新の誤り一訳者)により統一国家をつくりあげた。この改新は遣唐使により輸入された唐の律令国家体制を模範とするものである。日本も仏教思想を国家統一の原理と見なして仏教を保護したので、仏寺、仏塔がたくさん建立された」(同篇同章同1、(5)唐文化の波及、pp. 98-99)→著者は早稲田大学卒、嶺南大学校教授。→①均田制のみ(略)、②朝鮮・渤海・日本・安南、③北朝の剛健な文化と南朝の繊細で華麗な文化が融合、東西交通により国際的な性格、④貴族趣味と異国情緒、⑤李白・杜甫・白居易・韓愈・柳宗元・呉道玄・李思訓父子・王維・欧陽詢・顔真卿、⑥新羅・吐蕃・日本、⑦唐文化の伝播で東アジア文化圏、⑧なし、⑨日本の律令国家体制、⑩以上、各項目で内容分類ができ、山川出版社本によく従っていることが分かる。第四次教育課程以前に、「東アジア文化圏」は、山川出版社本を通じて既に広まっていた。

(4) 蔡ヒスン・ノミョンシク著『人文系高等学校世界史』法文社、1970・1・10

「国際的に発展した唐の貴族文化は周辺各国まで拡大し大きな影響を与えた。したがってこのような唐の文化と接触した周辺諸国も唐の文化に刺激され、自らの民族的自覚を促しつつ彼ら独特の民族文化を発展させていったため、ここに盛唐文化を土台にし、これに刺激させられた各民族の固有の文化が発展する東アジア文化圏の樹立を見ることになった」(第2篇中世世界の生活、第3章東部アジア諸民族の発展、3 中国周辺諸国の発展、東アジア文化圏の成立)「新羅は、…半島を統一した後、華麗なる唐の文化を輸入し燦爛たる貴族文化の華を咲かせた。…渤海は唐の国の制度と文物を輸入し国家機構を整備し、海東盛国として発展したため、満州の各地からその遺跡を見出すことが出来る。…7世紀中葉の大化の改新(645)を中心とした日本の新しい制度は隋・唐の国の制度を模倣したもので

あり、奈良・平安時代の燦爛たる貴族文物も中国文化の影響下になされたものである。…蒙古高原では6世紀中葉から突厥族の活発な動きがあった。その後8世紀中葉になるとウイグルがおこり内外蒙古を支配し、安史の乱を平定するのに大きな功を立てたためついに唐の国に大きな勢力を伸ばすことになった。彼らは唐の文化の輸入に大きな力を注ぎついに北方草原地帯に南方の農耕文化を発展させ、…唐の国の初期におこったチベットは中国とインドの文化を輸入し、ラマ教を信仰し、初めてチベット文字を発明し、…また雲南方面では8世紀中葉にチベット・ビルマ系統の南詔が唐文化を輸入し活発な国家活動を展開した」(同篇同章同3、朝鮮半島と満州、日本、突厥とウイグル、チベット、東南アジア、pp. 92-94)→蔡ヒスンはソウル大学校師範学校教授。ノミョンシクは京畿大学校文理科大学教授。→「周辺諸国も唐の文化に刺激され、自らの民族的自覚を促し」というところが、日本の山川出版社本の「隋・唐の影響によって東アジアの諸民族はめざめて独立し」(村川堅太郎・江上波夫・林健太郎著 史学会編『再訂 世界史』山川出版社、1952・3、村川堅太郎・江上波夫・林健太郎著『詳説世界史』山川出版社、1960・3等)に近似している。東アジア文化圏あり。文化の特徴は唐の貴族文化。唐文人一覧なし。日本の律令国家体制なし。文化・制度の伝播範囲は、新羅・渤海・日本・ウイグル・チベット・南詔。ウイグルが唐の文化を輸入し、北方草原地帯に南方の農耕文化を発展させたという。

(5) 文教部検定、1968・1・11、第98号、申ソクホ・朴ソンス著『人文系高等学校世界史』光明出版社、1973・1・10

「唐が中国大陸を統一することにより、周辺の諸民族の政治情勢は大きく刺激を受け、唐の文化はわが国の新羅文化と日本の奈良朝文化に大きな影響を及ぼした。…統一新羅は唐の制度と文化を受け入れ、華麗な仏教文化をつくりあげたが、政治的には唐に事大の礼を行い、その後歴代王朝の事大主義外交政策の起源となった。新羅統一以後北朝鮮の一部と満州に高麗の移民が建てた渤海(699～926)がおこり、日本と通商する一方、唐と交流しその文物を輸入した。…日本も遣隋使・遣唐使を派遣し隋・唐の制度と文化を受け入れたが、7世紀中葉大化の改新を断行し中央集権国家をつくり上げた。8世紀初めには日本の古典文化と言い得る奈良朝文化が開花した。…8世紀ごろからトルコの別一派ウイグルがおこり東西交易に活躍した。チベットも7世紀ごろに統一国家吐蕃がおこり中国とインドの文化を受け入れた。…雲南でも8世紀中葉南詔がおこり唐の文化を受け入れ…」(Ⅱ中世世界の生活、4隋・唐の統一と文化、東アジアの情勢、pp. 94-96)→申ソクホは京城帝国大学史学科卒、国史編纂委員会委員長、成均館大学校文科大学長、朴ソンスはソウル大学校師範大学歴史科卒、成均館大学校文科大学教授。→東アジア文化圏なし、唐の制度・文化の伝播地域は、新羅・渤海・日本・吐蕃・南詔。ウイグルは不明瞭地域。日本の律令国家体制なし。新羅が唐に事大の礼をとったことが歴代王朝の事大主義外交の起源だという。

●第三次教育課程期(1973—1981)

(6) 文教部検定、1968・1・11、第96号、金サンギ・閔ソッコン著『人文系高等学校世界史』乙酉文化社、1974・1・10

「倭族は大概東北アジア系統の族属と南洋族そしてアイヌ族の雑種だった。彼らは一時代には今日の九州と本州西部にかけて部落諸国家を成していた。彼らのなかで特に大陸に近い部落に住む倭人は三韓から文物を受け入れ、再びわが三国時代に至り、倭人は主に百済を通じ漢学と仏教と各種技術の同文物を受け入れた」（単元Ⅰ 古代の世界と生活、第8章魏晋南北朝と東北アジア、わが国と日本、pp. 63-64）「唐代の文化は単純に唐代の中国を飾るのみならず、隣の諸国に伝播し手本となった。わが国の統一新羅の文化や日本の奈良時代の文化はすべて唐文化の影響の下、発達したものである」（単元Ⅱ 中世の世界と生活、第4章唐・宋時代とその文化、pp. 98）「統一後の新羅は唐の文物制度を多く受け入れ、新しい国家体制を整え、石窟庵に代表される燦爛たる仏教美術を創造した」（同単元同章、周辺諸国、pp. 99）→金サンギは早稲田大学史学科卒、ソウル大学校名誉教授。閔ソクコンはソウル大学校文理科大学史学科卒、ソウル大学校文理科大学教授。→唐文人一覽あり（略）、李白・杜甫・白居易・韓愈・柳宗元・呉道玄・李思訓・王維・歐陽詢・褚遂良・顔真卿。東アジア文化圏なし。「倭族は大概東北アジア系統の族属と南洋族そしてアイヌ族の雑種だった」という記述。

(7) 文教部検定、1968・1・11、第95号、崔ジョンヒ著『人文系高等学校新しい世界史』思潮社、1976・1・10

「州・郡県の地方制度を採用した智證王の後につづき、法興王が即位した。この頃の新羅はすべての制度を完備するようになり、仏教も公式に許可され、広く広まり始めた(527)。」(Ⅰ 古代生活、第8章魏・晋・南北朝と東北アジア、2 東北アジアの形勢、4) 新羅、p. 69
「日本は、…その後出現した大和政権により、島国の大部分が統一され(4世紀)、百済から漢文と仏教も伝えられ、開化するようになった」(同Ⅰ、同章、同2、5) 日本、p. 70
→Ⅱの第4章の節題にアジア文化圏とある。

(8) 文教部著作、韓国教育開発院『高等学校世界史』大韓教科書株式会社、1979・3・1

「漢の武帝が中国東北地方から朝鮮半島北部にわたって建てた漢の四郡はわが国の一部ではあるがこの異民族が統治したという点で確実に望ましいことではなかった。しかしわが祖先たちはこの試練の時期を通じ、わが民族の団結力を固め彼らが持っていた社会秩序と科学技術をはじめとする各種文化に接し跳躍の足がかりとみなした。特に高句麗は中国が我々の土地に設置した郡県の統治に刺激されその勢力を退ける過程で成長した。高句麗人たちは中国民族との血のするような闘争で、身に宿る固い団結力と勝負の精神は数次に渡る隋・唐の侵入を退け一時は契丹・靺鞨を服属させ突厥とも競い、東アジアの勢力を牛耳った」(Ⅲ 東洋世界の展開、3 東北アジアの発展、(2) わが国の発展と中国との関係、古代におけるわが国と中国、p. 126) 「…しかし我々は中国文化を受け入れそれを模倣するに留まらず、またそれに同化しわが文化の本当の姿を失うことはなかった。わが民族は中国文化を受容し、それを民族と国家の繁栄に適切に再び創意力を発揮し、新しい文化を創造してきた」(同Ⅲ同3同(2)、唐以後の中国とわが国、p. 127) 「7世紀はじめからは直接中国に使臣を送り文物を吸収し大化の改新に至ることになった。すなわち日本は唐の行政組織、

土地制度、税制制度などを見習い、儒教的中央集権制を確立した」(同Ⅲ同3、(3)日本の発展、大和朝廷の成立、pp. 128)→**国定教科書、民族主義史観**

●**第四次教育課程期 (1981—1987)**

(9) 文教部検定、1983・7・29、申チェシク・梁ビョンウ著『高等学校世界史』宝晋齋、1984・3・1)→蔡ヒスン・ノミョンシク著『人文系高等学校世界史』(法文社、1970・1・10)と文章も内容もほとんど同じ。唐文人一覧に、人物画の閻立本が登場した。日本で唐文人に閻立本が入るのは、学習指導要領第三期(1960年告示・施行)の検定本、「貝塚茂樹・増田四郎・小竹文夫・笠信太郎著『世界史B』1964、自由書房」からである。

(10) 文教部検定、1983・7・29、李ミンホ・申スンハ著『高等学校世界史』大韓出版社、1984・3・1

「わが国も古代国家がはじまるときから中国をはじめとする隣国の影響を受けたことを知り得る。とくに仏教や儒教はいまや我々の文化の中に深く根を下ろすまでになっている。…1,各文化圏の特性を生かしつつ、それが互いにそのような関連をもち発展したかを探る。2,各文化圏を再び時代別にくくり、時代の流れに沿って人類の生活がどのように変化したかを一目瞭然に理解させるため年表を作成しておいた。3,従来の西洋史中心の世界史構成を脱皮し、東洋とヨーロッパを均衡をもって取り扱った」(前書き)「百済は海を通じて六朝文化を受け入れ百済特有の文化を発展させ、これを日本にまで伝え、彼らの統一国家形成に大きな影響を及ぼした。新羅は…唐の勢力を退け、韓半島を統一した。このようにわが国は歴史的に中国との密接な関係を維持しつつもその文化に動揺せず、わが国の現実に合う新しい文化を創造した。…8,9世紀頃渤海は高句麗文化を土台に唐の文物制度を受け入れ繁栄を誘い日本とも往来した。…古代日本は彼らの新石器時代の遺物が示すようにわが国の文化を受け入れ、彼らの文化を発達させた。…隋・唐の時には遣隋使・遣唐使をはじめとし留学生・留学僧を中国に送り中国の文物を受け入れ、7世紀中葉に大化の改新で天皇中心の律令体制を確立した。…12世紀中期…この頃、日本は遣唐使廃止以来の消極的な政策をかえ、高麗、宋と活発な貿易をおこなった。平安時代は貴族的な文化が大きく発展したが、中国を模倣してきた文化は衰退し、日本的な文化が成立した。このときに日本の文字である仮名が登場し、仏教も日本化した」(Ⅱアジア世界の展開、2東アジア文化圏の成立、(2)唐文化の伝播と東アジア文化圏、わが国の三国時代、日本、pp. 44-45)「…突厥は、…彼らは文化的に唐の影響を大きく受けつつ、東西貿易路を掌握し一時繁栄した。ウイグルは西方にあるイラン系のソグド人と交渉が活発であったため、東西の様々な文化を受容し複合的で独特の文化を発達させ、宗教は主にマニ教を信じたが、仏教も盛んだった。…(チベットでは一訳者補)…玄宗の時には吐蕃に対し積極的な攻勢を繰り上げたが、安史の乱がおこり唐の基盤が揺らぐや、むしろ長安を占領されもした。…ウイグルが唐と連合し、南詔が唐と親しくしつつ吐蕃を孤立させたときに、吐蕃で内乱が起き、国政が大きく弱体化し唐から奪った地域を喪失した」(同Ⅱ、同2、同(2)、突厥とウイグル、チベットと南詔、pp. 46-47)→李ミンホはソウル大学校師範学校歴史科卒、ソウル大学校人文大学教授。

申スンハは高麗大学校史学科卒、高麗大学校文科大学副教授。→ここでは西洋中心の世界史からの脱皮、文化圏学習をうたっている。「いわゆるヨーロッパ中心史観からの脱却」を理由として「文化圏学習のねらい」をうたうのは、日本では第四期（1970年告示、1973年施行）の学習指導要領解説書からである。

→東アジア文化圏あり。唐制度・文物の伝播地域は、新羅・渤海・日本・突厥・ウイグルで、突厥は唐文化の影響を大きく受けたと解する。吐蕃・南詔は不明瞭地域。新羅は唐の文化に動揺せず、新文化を創造したとする。また、日本の律令体制にふれる。

(11) 文教部検定、1983・7・29、関ソッコン・羅鐘一・尹セ Chol 著『高等学校世界史』
教学社、1984・3・1

「唐の勢力がアジア諸地域に及ぶにつれて、その制度と文化もともに伝播し周辺民族の文化も大いに刺激した。特に新羅・渤海・日本・ベトナムなど東アジアの場合はその影響が顕著で、儒教・漢字・律令体制・仏教を基本とした東亜文化圏形成の可能性を見せた。唐は…突厥と衝突したが、…吐蕃が…唐の勢力と対決した。…チベット、ビルマの民族が南詔を建てたが、…ベトナムの北部は唐の支配下にあったが」(Ⅱアジア世界の展開、2 東アジア文化圏の成立、(2) 隋唐帝国の再統一、中国周辺の諸民族、p. 38) 「高句麗は…つづいて隋・唐の侵略勢力も退け、突厥とも競い、一時東北アジアに雄飛した。…渤海は唐の文化を受け入れ、日本とも交易した。三国は中国の魏・晋・南北朝および唐と文化的交流を活発にした。とくに、仏教の伝来はわれわれの信仰生活と文化発達に大きく貢献し、仏教の教理が土着化する中で仏教美術も大きく発達した。一方、わが国の農業技術・漢字・暦法・仏教を日本に伝えてやったので、大和政権はこれを活用し、国家の体裁を整えていった。日本の文化は新石器時代からわが国と中国の影響を受けて成長した。とくに九州地方では、早くから国家活動が開始されたが、中国ではこれを倭と呼んだ。…大和政権は韓半島（朝鮮半島に対する韓国人の呼称一訳者）の移住民とその文化を積極的に受け入れ、大陸の儒教と仏教はもちろん、行政制度の受容により彼らの国家体制と、生活の土台をつかんだ。一方、日本は7世紀から隋と唐に使臣と留学生を送り、発達した中国文物の輸入に熱中した。大化の改新は唐の諸制度を模倣し、中央集権国家を建設しようという試みだった。…その後日本は次第に仏教の僧侶と貴族たちの跋扈で、天皇勢力が弱化し、貴族社会に変わった。このとき日本固有の文化が発達し、「日本書紀」「万葉集」などの本が出て、日本の文字である仮名も作られた」(同Ⅱ、同2、(3) 韓国と日本、韓国の歴史の発展、日本の発展、pp. 38-40) →関ソッコンはソウル大学校文科大学卒、ソウル大学校人文大学教授。羅鐘一はソウル大学校文科大学卒、ソウル大学校人文大学教授。尹セ Chol はソウル大学校師範大学卒、ソウル大学校師範大学教授。→「東亜文化圏の可能性」という。見出し語では「東アジア文化圏」を使っている。唐の制度・文化の伝播範囲としては新羅・渤海・日本・ベトナムをあげ、文化内容として儒教・漢字・律令体制・仏教を確定している。突厥・吐蕃は不明瞭地域。なお、日本の検定本では、漢字・漢文・法制・官制・律令国家・仏教などで共通の文化を持つ東アジアという分かりやすい指標が、学習指導要領第

二期（1953～1961）の検定本に登場するが、後に本格化するのは第六期（1989年告示、1994年施行）からである。ちなみにここでは、日本の律令国家体制そのものは語らず、「唐の諸制度を模倣し、中央集権国家を建設しようという試みだった」と記述している。

（12）文教部検定、1983・7・29、呉インソク・金ギョホ著『高等学校世界史』東亜出版社、1984・3・1

「韓半島では漢の郡県との対決を通じて成長した高句麗・百済・新羅の三国が2～3世紀頃、古代王国の土台をしつらえ、魏・晋・南北朝時代の中国と交流しつつ、独自の仏教文化を發展させ、これを日本に伝え、文化に大きな影響を与えた。7世紀頃、新羅は唐と連合して三国を統一し、民族文化の基礎をしつらえ、高句麗の遺民たちは渤海を建て、一時‘海東盛国’を誇った」（IVアジア社会の変革、（2）東北アジアの変遷、韓半島の情勢、p.42）「大和朝廷は710年に奈良に遷都したが、以後700年間を奈良時代という。この時期に日本は遣唐使を通じて文物を活発に導入し、律令体制を整備し、班田収受法などを実施し、国家の保護下に仏教文化が發展し、東大寺と国分寺など多くの寺刹が建設された」（同IV、同（2）、日本の変遷、pp.43-44）「チベットでは吐蕃が興り、…唐と張り合える国勢を轟かせたが、…一方、雲南地方ではビルマ系民族が唐の文化の刺激を受けて南詔国を建て、…また、蒙古高原地帯では突厥とウイグルが相次いで興り、唐の文化を吸収しつつ、固有の文化を創り、…」（同IV、同（2）、その他の諸国、p.44）→呉インソクはソウル大学校師範大学歴史科卒、ソウル大学校人文大学、西洋史学科副教授、金ギョホはソウル大学校師範大学歴史科卒、江原大学校師範大学歴史教育科副教授→東アジア文化圏なし。唐文化の伝播地域としては、新羅・渤海・日本・突厥・ウイグル・南詔を挙げる（略）。吐蕃は不明瞭地域（略）。新羅は民族文化の基礎をつくり、渤海は「海東盛国」（新唐書）。日本は唐文化を吸収し、律令体制を整備し班田収受を実施。

●第五次教育課程（1987—1992）

（13）文教部検定、1989・8・19、申チェシク・洪ソンピョ著『高等学校世界史 教師用指導書』宝晋齋、1990・3・1

「隋・唐時代は貴族制を基盤に律令国家体制が完備され、南北朝の文化を融合した上に、外来文化を果敢に受容し、国際的な文化を花開かせ、このような文化をわが国と日本・満州・チベットなどの地を包含する東アジア地域に拡大しつつ、この地域の民族文化と融合し、東アジア文化圏を形成するようになった」（主題の概観）「・唐文化は貴族的で、国際的性格を持っており、律令体制と共に周辺国家に拡大し、東アジア文化圏を形成した。・東アジア文化圏の基本要素は、儒教と仏教そして漢字と律令体制だ」（主題の中心概念）（IIIアジア世界の展開、1東アジア文化圏の成立、p.99）

「1東アジア文化圏の成立 ①東アジア文化圏 中国・わが国・蒙古・満州・日本 ②共通的文化要素 漢字・儒教・仏教・律令体制 ③成立の背景 唐の文化を基盤→周辺国家に伝播 / 2わが国 ①満州地方 武帝の四郡設置 高句麗の統一国家が樹立 唐の高句麗滅亡→渤海の再統一 契丹の渤海滅亡→満州はわが歴史から消え去ったこと ②南部

新羅（辰韓の地）・百濟（馬韓）・伽倻（弁韓）の興り 三国時代の形成-高句麗・新羅・百濟 ③三国の統一 韓半島→新羅、満州→渤海 / 3日本 ①3世紀 - 小国分立→邪馬台国、魏と交通（「魏志倭人伝」の記録）②4世紀 - 大和朝廷による統一③5世紀 - 倭王、数次中国南朝に使臣派遣→大和朝廷の統一体制進展、儒教、仏教の伝来→文化的発見④7世紀中盤 - 大化の改新→唐文化輸入、国王政確立⑤8世紀 - 奈良・平安時代→古代国家完成⑥11世紀 - 武士の幕府体制開始→700年間継続→明治維新（1868）で王政復古 / 4蒙古とチベット地方 ①蒙古高原 6世紀突厥族 8世紀ウイグル族活躍 ②チベット地方 7世紀初 ラマ教成立 8世紀 南詔建国」（内容展開）「①東アジア文化圏 東アジアの歴史は中国を中心に相互に密接な関連性を持ちつつ展開されてきた。中国と韓国、日本、満州、蒙古などの東アジア世界においては、相互の文化交流を通じて文物の交流が活発になされる過程で、共通的な文化要素を整えてきたが、漢字・儒教・仏教・そして律令体制がそれだ」（参考事項）（同Ⅲ、各論、p.110）→東アジア文化圏あり。南北朝の文化を融合した上に、外来文化を果敢に受容し、国際的な文化となった唐文化という表現は、日本の山川出版『世界史』『詳説世界史』系統に同じ。唐制度・文化の地域は、中国・新羅・百濟・伽倻・日本・満洲（高句麗・渤海）・蒙古高原（突厥・ウイグル）。チベットは不明瞭地域。東アジア文化圏の文化要素は儒教・仏教・漢字・律令体制。日本の律令体制は、「国王政確立」と読みかえている。

（14）文教科検定、1989・8・19、李ミンホ・申スンハ著『高等学校世界史 教師用指導書』志学社、1990・3・1

「A. 東アジア文化圏 文化的な同質性を持つ地域的範囲を文化圏という。唐の国力と領土膨脹で、漢字・律令制・儒教・唐代の中国化した仏教などが唐の周辺国家に伝播し、東アジア一帯が統一文化圏をなすことになったことを理解させる。B. わが国と中国間の交流 わが国の中国文物輸入において、受動的な側面を止揚し、能動的な側面を強調することが望ましい。即ち、儒教・仏教の伝来と仏教美術の発達、官制の受容と制度のわが国化など、すべてをわが実情に合わせて変形した後に、これを再び日本に与えた事実注目する必要がある。C. 日本の先進文物輸入 日本は文化的に遅れていたが、わが国と唐の文物を受け入れ、大化の改新を成し遂げるなど、文化の発展があったことを理解させる。…D. 唐代の周辺民族の成長 唐文化の影響を受けた突厥・ウイグル・吐蕃・南詔などが、それなりに成長していく過程に留意して説明する。とくに、ウイグルが安史の乱の時に唐を援助した点と、諸民族が自分の文字を作り使用したこと（突厥文字、ウイグル文字、吐蕃文字など）を強調する」（第2部各論、Ⅲアジア世界の展開、（3）東アジア文化圏の成立、pp.73-76、授業展開、1指導方向、pp.85-86）→東アジア文化圏あり。文化要素は儒教・仏教・漢字・律令体制。範囲は、三国・渤海・日本・突厥・ウイグル・吐蕃・南詔。韓国の能動的側面を強調し、日本の受動的側面を強調せよと指導する。

（15）文教科検定、1989・8・19、池ドンソク・閔ソンギ・張サン Chol 著『高等学校世界史 教師用指導書』金星教科書、1990・3・1

「○唐の文化と社会制度などが周辺国家に伝播し、東アジア一帯が統一した文化圏をなすようになったことを説明する。／ 一周辺国家に対する唐文物の伝播内容は何か？・律令体制・儒教文化・漢字、仏教 / 一各国に及んだ唐の影響は何か？・統一新羅、渤海 政治・文化・貿易面で交流 ・日本 唐文化の影響で国王中心の中央集権体制成立 / 一蒙古高原、パミール高原、チベット高原で活動した諸民族の成長はどうだったのか？ ・蒙古高原；匈奴族 (B. C. 3～B. C. 2C) →北魏 (鮮卑族 4～6C) →柔然→突厥族 (6 世紀中葉) →ウイグル族 (8 世紀中葉) ・パミール高原；9 世紀頃からトルコ系の民族が占領 ・チベット高原；吐蕃 (7～9C) が唐と競争し、ラマ教を信奉、チベット文字を使用 ・雲南地方；チベット・ミャンマー系の民族が南詔建国 (8C 中葉) →大理国 (10C)」(各論、Ⅲアジア世界の展開、p. 76) →東アジア文化圏あり。文化要素は儒教・仏教・漢字・律令体制。範囲は、新羅・渤海・日本・突厥・ウイグル・吐蕃・南詔。

(16) 文教部検定、1989・8・19、金キジュ・金ウォンス・張テハン著『高等学校世界史』章源社、1990・3・1

「第二に、現代世界の諸民族と各地域文化の特色および共通点をみつけ、その民族と文化が世界史でどのような役割を果たし、それが全人類にどのような寄与をしたかを知ろうとすると、(目的が一訳者補) ある。今日の世界のすべての民族、すべての地域は互いに密接な関連と紐帯を結んでいるために、地球村の一隅で起こった事件や問題も、直ちに、どのような形であっても、他国に影響を及ぼしつつある」(前書き)「高句麗滅亡後、遺民大祚榮が高句麗の故地に渤海を建国したが (698)、契丹族に滅ぼされた (926)。一方、新羅は唐の韓半島に対する領土的野心を退け、三国統一を成し遂げた (676)」(Ⅲアジア世界の展開、1 東アジア文化圏の成立、4 周辺諸国の変遷、わが国、p. 81)「隋・唐代には留学生や留学僧を含んだ遣隋使、遣唐使を派遣し、唐の律令体制を受け入れ、国王中心の国家体制を整えた (大化の改新;645)。…8 世紀には首都を奈良に移し、唐と交流を維持する一方、これを通じてインドとイランの文化も受容し、天平文化を作り上げた」(同Ⅲ、同 1、同 4、日本、pp. 81-82)「一方、東突厥に服属していた同じトルコ系のウイグル (回紇) は、…安史の乱が起こったときは唐を援助し、後に唐の内政にも干渉した。…吐蕃は唐とインドの文化を受け入れて発展し、…チベット文字を作り独特な文化の基礎を作り上げた。…雲南地方からミャンマー方面にかけてチベット、ミャンマー系の民族が大理 (雲南省) を中心に南詔を建設した。…唐の文化を受け入れ、漢字を使い、仏教を奨励した」(同Ⅲ、同 1、同 4、その他の諸国、p. 82) →「地球村」の世界史をうたう。これは第七次教育課程の項目だが、それに先行している。唐文人一覧あり (略)。李白・杜甫・白居易・韓愈・柳宗元・王維・呉道玄・欧陽詢・虞世南・顔真卿・玄奘・義浄が挙げられている。東アジア文化圏あり。伝播範囲は新羅・渤海・日本・ウイグル・吐蕃・南詔。日本の律令体制を「国王中心の国家体制」といい、天平文化に触れる。

(17) 文教部検定、1989・8・19、申チェシク・洪ソンピョ著『高等学校世界史』宝晋齋、1990・3・1

「(1)世界史の流れを各時代と文化圏中心に理解させることに重点を置き、これらの間の有機的な関係を総合的に把握できるようにした。…(2)…従来の中国史やヨーロッパ史中心の叙述を打破するように配慮し、…」(前書き)「唐の文化は南北朝以来分裂してきた中国文化を整理し貴族文化を形成するとともに開放政策により世界各地の文化が流入し国際的な文化として発展した。…新羅をはじめとし日本、渤海、インド、アラビア、西域など各国から使節団、留学生、商人たちが往来する国際都市であり、世界文化の中心地だった。貴族的で国際性を帯びた唐の文化は周辺諸国に大きな影響を与え東アジア文化圏の中心になった」(Ⅲアジア世界の展開、1 東アジア文化圏の成立、(2)隋・唐帝国と東アジア文化圏の成立、唐文化の特色、pp. 76-77)「7 世紀以後、東アジアには周辺国家でも民族的な自覚運動により、民族文化の発展が著しく表れた。これは唐の国際的文化に周辺諸国が民族文化の発展を促した結果と言えよう。…このような各民族の固有文化の土台に盛唐文化が流入することによりさらに多様な文化を発展させることが出来たため、ここでいわゆる東アジア文化圏が成立した。…満州では大祚栄が高句麗の遺民と靺鞨の輩を率いて渤海を建て(698)、高句麗の故地を回復した。新羅は高句麗と百済の文化を融合し唐文化を受容して、燦爛たる貴族文化を花開かせた。…日本は、…その後7世紀初、隋唐に直接使臣を送り親交を結び多くの僧侶と留学生を派遣するなど唐文化を受容する一方、7世紀中盤に大化の改新(645)で新しい改革を断行した。これは隋・唐の制度を模倣したもので、このときから国王の統治体制が固まった。…ウイグルは、…彼らは唐文化を受け入れ西方とも交流を維持し、独自の文字を作るなど一時盛んだったが、9世紀はじめにすべて滅亡した。チベットは7世紀はじめに唐とインド文化の影響の下にラマ教を信奉し、チベット文字を発明した。8世紀後半にはその系統の南詔が唐文化を輸入し民族文化を建てた」(同Ⅲ、同1、(3)東アジア文化圏の拡大と各国の発展、東アジア文化圏、わが国、日本、蒙古とチベット地方、pp. 79-82)→①均田制・租庸調制・府兵制・三省六部・律令あり(略)、②日本、③南北融合に世界各地の文化が流入して国際的、④貴族文化、国際性、⑤唐文人は、李白・杜甫・白居易・韓愈・柳宗元・王維・閻立本・呉道玄・歐陽詢・顔真卿・劉知幾・杜佑・孔穎達・義浄・玄奘、計15人で韓国の検定本では最も多い(略)、⑥新羅・日本・ウイグル・チベット・南詔、⑦唐の文化が広まり、東アジア文化圏成立、⑧渤海の説明なし。76頁の図ではその他に突厥・吐蕃・真臘・チャンパー・シュリーヴィジャヤ・シャイレンドラが加わる(略)、⑨日本の律令体制といわず、「国王の統治体制」という、⑩各項目分類が可能なことから、山川出版社『世界史』『詳説世界史』系統を典型的に踏んでいることが分かる。唐制の伝播地域ではなく、唐文化の伝播地域として東アジア文化圏を設定する。

→上記、真臘(カンボジア)・チャンパー・シュリーヴィジャヤ等の東南アジア地域については、日本では、「酒井忠夫・高橋幸八郎他3名著『改訂 世界史 B』秀英出版、1967. 3. 25改訂初版」に中国文化圏の不明瞭地域として初めて現れた。その後は、「三上次男・大野真弓・秀村欣二他3名著『新版 世界史 B』中教出版、1967. 2. 10」「高橋秀・堀敏一・松井透・今井宏・富永幸生著『高等世界史 最新版』帝国書院、1975. 1. 20」「井上智勇・田村実造

著『世界史』清水書院、1973. 2. 15 初版、1974. 2. 15 二版」等に単発的に現れた。また、山川出版社本では「村川堅太郎・江上波夫・山本達郎・林健太郎著『詳説世界史』(新版) 1983. 3」で、東アジア文明圏の不明瞭地域として登場する。しかし、他系統の山川出版社本「柴田三千雄・弓削達・辛島昇・斯波義信・木谷勤・近藤和彦他 5 名著『新世界史 改訂版』2007. 3. 5」では、それらは東アジアとは関係なく、「インド文化圏」に属するとしている。その後かなりの間を空け、第七期学習指導要領(1999 年告示、2003 施行)からの東アジア世界を国際関係から捉える傾向に後押しされ、山川本以外の「鶴見尚弘・遅塚忠躬他 11 名著『世界史 B 新訂版』実教出版、2007. 1. 25」でこの地域が再登場し、以後は安定的に現れつづけている。

(18) 文教部検定、1989・8・19、池ドンシク・関ソング・張サン Chol 著『高等学校世界史』金星教科書、1990・3・1

「今日われわれは一つとなった世界に生きる世界市民である。…今日われわれが享受している韓国文化は、われわれの先祖たちが長い間発展させてきた民族史の遺産であるが、同時に世界諸民族の文化要素も受容し、われわれのものとして融化したもので、いわば全人類の共同の遺産である。…このような意味で、世界各民族の歴史をおのおの孤立した単一民族史としての特殊性のみならず、普遍性をもった一つの歴史として見ようという学問が世界史である。…(2) 歴史が発展する過程で、はじめに孤立して発展してきた諸文化圏がしだいに交流し、近代以後一つの世界を形成していく過程に比重を置いた」(前書き)「唐代の文化の特徴は、漢代の文化の集大成、江南と華北の文化を融合した貴族的色彩、強い国際的性格などを帯びている点である。…(以下、唐代人物一覧がつづく)」(Ⅲアジア世界の展開、Ⅱ東アジア文化圏の成立、(2) 中国の再統一と漢文化の発展、唐代文化とその性格、p. 68)「東アジア諸民族は唐の制度と文物を磨いた。新羅と渤海は政治・文化・貿易面でそれぞれ唐との交流が活発だった。日本は外国の先進文化を受容するのにさらに積極的で、新羅、隋・唐に派遣する使臣と留学生、留学僧が先進文化を学んできたことが、日本の古代文化と国家発展に大きく寄与した。これら諸民族が唐から受け入れた制度と文物にはそれぞれ差異があるが、大体、律令体制・儒教文化と漢字、仏教だった。しかし唐と周辺の諸国を結びつける環は冊封体制と朝貢制度だった。このようにして、唐の文化を中心にした東アジア文化圏が形成された。…ベトナムの独立もその影響だった」(同Ⅲ、同Ⅱ、(3) 東アジア文化圏の形成、唐文化の伝播とその意味、pp. 69-70)「…6 世紀中葉にはトルコ系の突厥族が草原地帯を統一した。8 世紀中葉にはやはりトルコ系のウイグル族が蒙古高原を支配した。これら諸民族は政治・文化面で、唐と緊密な関係を維持しつつも、一方では西方との交易を通じ、独自の文化を維持しようとした。…一方チベット高原にはチベット人が吐蕃を建設し、唐と競争した。…雲南では 8 世紀中葉にチベット・ビルマ系の民族が南詔を建国し、…半島南部には百済と新羅が高句麗に対抗し、中国の文化を受け入れ成長していった。…この後、統一新羅は唐と積極的に文化交流をし、発展した。一方高句麗滅亡後、高句麗の遺民の大祚栄が満州地方に渤海を建てた。…唐文化を受容し、日本と

も交易した。…日本には、…4世紀からは高句麗と百済を通じて中国文化を受け入れ、隋・唐とも交流した。7世紀中葉には唐の律令体制により国家体制を整えた」（中国周辺諸民族の成長、韓国の中央集権国家、日本の成長、pp.70-72）

「平安時代には貴族文化が発展したが、遣唐使を廃止したこと（894）を契機として、日本は固有の文化が成立した。8世紀初には日本最初の史書である日本書紀と古事記が編纂されたが、大化の改新以前の歴史を多く歪曲してしまった」（同Ⅲ、同Ⅱ、同（3）、日本の成長、p.72）→「地球市民」を謳う。唐の文化は、江南と華北の文化の融合で、強い国際的性格といい、日本の山川出版社本を典型的に踏む。唐文人一覧あり（省略）。李白・杜甫・白居易・韓愈・柳宗元・顔真卿・李思訓・呉道玄・玄奘・義浄が挙げられる。唐と周辺国を結びつけたのは冊封体制と朝貢制度であり、この関係にのっとして、律令体制・儒教文化と漢字、仏教が広まり、東アジア文化圏が形成されたとする。本文中では伝播地域が、新羅・渤海・日本・ウイグルで、不明瞭地域はベトナム・吐蕃・南詔だが、本書に図があり、文化伝播地域として、日本・新羅・渤海・ウイグル・吐蕃・南詔・真臘・チャンパ・シュリービジャヤ・サイレンドラが挙げられている（略）。ベトナムは無い。日本書紀と古事記を歪曲史書としている。

●第六次教育課程（1992—1998）

（19）1995・9・30 教育人的資源部検定、呉インソク・金ギョホ著『高等学校世界史』斗山、1996・3・1 初版、2002・3・1・二版

「唐代には南北朝の文化が融合し、外国文化が流入して国際的性格を帯びた貴族文化が発達した。…（唐文人一覧に続いて）このような唐の文化は東アジア各民族に深い影響を与え各民族の文化発展を促進し、唐を中心とする東アジア文化圏が形成された」（Ⅲアジア世界の形成、2 東アジア世界の展開、（2）隋・唐帝国の統一、唐の文化、pp.94-95）→①均田制・租庸調制・府兵制・律令あり、三省六部無し（省略）。②なし、③南北朝の文化が融合し、外国文化が流入、④国際的性格、⑤唐文人一覧あり（略）、李白・杜甫・白居易・韓愈・柳宗元・王維・閻立本・呉道玄・欧陽詢・顔真卿・孔穎達・玄奘・義浄、⑥なし、⑦唐の文化が広まり、東アジア文化圏成立、⑧なし、⑨なし、⑩この教科書から日本の近世史に関する記述が出現。さむらい（侍）、ちょうにん（町人）、きょうほかいかく（享保改革）、てんぼうかいかく（天保改革）などが、音表記のまま、ハングルで出てくる（略、p.234-235）。

（20）1995・9・30 教育人的資源部検定、許スンイル・李チュヨン・崔カプスン著『高等学校世界史』志学社、1996・3・1・初版、2002・3・1・二版

「魏・晋・南北朝から唐代にかけて、中国文化は周辺民族に伝播し各民族の国家体制確立に大きく寄与した。周辺民族は中国の先進文化を受容しつつも、政治的に自立しようとする努力を見せた。かくしてこれらを自分の勢力化に置こうとする中国としきりに衝突した。このような過程を経て漢字、儒教、仏教、律令体制などを共有する東アジア文化圏が形成された。その結果唐代に至ると、唐を中心とした秩序の枠の中に統一新羅、渤海、倭、中国西南の南詔などが独立国家を成していた。ベトナムでも中国の統治から抜け出そうとす

る動きが続いていたが、…一方遊牧民族の場合中国の北方では突厥とウイグルが順に強盛となり、唐の大きな脅威となった。チベットでは吐蕃が登場し、一時長安を占領するなど中国を悩ませもした」(Ⅲアジア世界の形成、2 東アジア世界の展開、(3)東アジア世界の成立と変遷、pp. 107-108)「中国人たちは中華主義を発展させたが、これは自分が世界の中心であり周辺にいる民族はすべて自分の支配下に置かれなければならないという意識だ。…一方直接支配は出来なくても周辺民族の統治者を冊封し、朝貢関係を結ぶことにより中国が主導する秩序を受け入れるようにした。しかし周辺の民族の立場では、冊封と朝貢関係を国家体制を整える過程で先進文化を受け入れる手段として利用する程度だった。…一方、わが国のように朝貢制度の枠を利用し内部的に発展を成し遂げる場合もあった。日本は国家体制を整えた以後にはこのような関係がほとんど表れてこなかったが、これは文化的に日本が孤立していたことが原因だった」(同Ⅲ、同2、探求資料、東アジア世界、p. 109) →東アジア文化圏あり。文化の共通要素は漢字、儒教、仏教、律令体制。文化圏の範囲は新羅、渤海、倭(日本とイワナイ)、南詔、ベトナム、突厥、ウイグル、吐蕃だが、説明がないので、すべて不明瞭地域。中華思想を中華主義といい、これに基づく中国と周辺民族の冊封・朝貢関係を記述する。朝鮮三国は中国と朝貢制度の関係だったが、日本は文化的に孤立していたため、朝貢関係も顕現しなかったのだとする。

●第七次教育課程(1998—)

(21) 2002・7・30 教育人的資源部検定、金ウンスク・チョハヌク・朱ミョンチョル・崔チュンジェ・南ハンホ著『高等学校 世界史』教学社、2003・3・1・初版、2007・3・1・五版

「東アジア文化圏は漢字、儒教、律令、漢字に翻訳された仏教経典を媒介とする仏教のような中国文化が広がった地域を指す言葉だ。地理的には中国を中心としてモンゴル高原、朝鮮半島、日本列島、ベトナム北部にわたる地域だ」(Ⅱ文明の夜明けと古代文明、3 古代アジア世界、(4)古代東アジア地域、東アジア文化圏の形成、p. 53)「隋・唐統一国家の登場は周辺民族に影響を及ぼし、唐の初期に漢字、儒教、律令、漢訳仏教典を媒介とする仏教のような共通する文化要素を持った東アジア文化圏が形成された」(Ⅲアジア世界の拡大と東西交流、1 東アジア世界の形成と拡大、(3)東アジア文化圏の形成と各国の発展、東アジア文化圏の形成、p. 98)「中国の歴代王朝は自分たちの国が天下の中心として唯一の文明国だと考え周囲の国家を野蛮人扱いした。これを中華思想または華夷思想という。…朝貢貿易というのは、周辺国の王が中国から冊封を受け、使臣を派遣し、礼物をおくれば、皇帝がそれに対し恩恵を施し、物を下賜する形式の貿易だ。このような関係を通じ周辺の国家は中国の文化を受け入れることによって東アジア文化圏が形成された」(Ⅴアジア社会の成熟、1 明・清代の中国、(3)中華の遠征と中華思想、中華思想の展開、p. 184) →①均田制・租庸調制・府兵制・律令あり、三省六部無し(略)、②新羅・渤海・日本(略)、③なし、④なし、⑤李白・杜甫のみ(略)、⑥新羅・渤海・日本と、モンゴル高原、ベトナム北部にわたる地域、⑦東アジア文化圏あり。漢字・儒教・律令・漢字に翻訳された仏教経

典を媒介とする仏教のような中国文化が広がった地域。かつ冊封・朝貢関係を通じて中国の文化を受け入れた地域、⑧なし、⑨なし、日本は「国王中心の国家体制」(略)、⑩「正しい歴史の認識」について解説あり、サミュエル・ハンチントンの文明圏にも言及(附録2-4参照)。

(22) 2002・7・30 教育人的資源部検定、呉グムソン・ユギョンジュン・林ファヨン・カンムンファン・チョンヨン著『高等学校 世界史』金星出版社 2003・3・1・初版、2007・3・1・五版

「(唐文人一覽につづいて一訳者) 唐代の中国人たちは古代から発展してきた中国文化を集大成し、ここに西方文化を融合することにより、高度の国際性を帯びた文化を発展させた。このような唐代の中国文化は東アジア文化圏を形成する土台となった」(3アジア世界の拡大と東西交流、第1章東アジア世界の形成と拡大、主題3 北方民族と漢族文化の大融合、アジア文化の溶鉱炉、p. 88)「唐代には律令と儒教・漢字・仏教とともに、都市区画も周辺国家に伝播した」(同3、同章、同主題、資料2、p. 88)「また奈良時代の日本は東アジア文化圏の一員として新羅、渤海、唐と活発に交流した」(資料1「日本の東アジア文化受容」)(同3、同章、主題4 わが国と日本の発展、東アジア文化の受容と『日本』の登場、p. 95)「日本人たちは奈良時代に、‘日本’という国号を使用し、自分の歴史と文化を整理しはじめた。この過程で朝鮮半島と関連する歴史的事実について歪曲がたくさん行われることもあった。その後平安時代には国風文化が発展するにつれ、今日日本的なもの認められる文化的・精神的傾向が徐々にあらわれた。写真「仮名で書いた古今和歌集」「静的な静けさが流れる庭園」「茶を通じた精神修養-茶道」(資料2「『日本』の出現」)(同3、同章、主題4 わが国と日本の発展、東アジア文化の受容と『日本』の登場、p. 95)「課題 1つの文化圏が形成されるためには相当程度の文化的共通性が保障されなければならない。東アジア文化圏では漢字がまさにこのような役割を果たした。東アジア文化圏の共通性を強化させた要素を整理してみよう」(同3、同章、3アジア世界の拡大と東西交流、単元の締めくくり、p. 117) →①均田制・租庸調制・府兵制・律令・三省六部あり(略)、②新羅・渤海・日本・ベトナム(全部が律令体制受容とする。省略)、③中国文化の集大成に西方文化を融合、④高度な国際性、⑤唐文人一覽あり(略)、李白・杜甫・韓愈・柳宗玄・歐陽詢・顔真卿・玄奘、⑥渤海・新羅・日本・ベトナム・突厥・チャンパ・真臘・シュリービジャヤ(略)、⑦唐の制度・文化の伝播地域が東アジア文化圏、共通要素は律令・儒教・漢字・仏教、⑧なし、⑨東アジア文化圏の一員、⑩日本の史書の整理編纂、つまり古事記、日本書紀で歪曲が行われたと主張する点は、(18)の池ドンシク・閔ソンギ・張サン Chol 著『高等学校世界史』金星教科書、1990・3・1に同じ。

(23) 2002. 7. 30 教育人的資源部検定、呉チャンフン・張チョングン・張ドウホ・朴チャンソク著『高等学校 世界史』志学社 2003・3・1・初版、2007・3・1・二版

「このような唐の統治制度はこの後中国歴代の王朝の模範となったのみならず、わが国をはじめとする東アジア諸国に大きな影響を及ぼした。唐の領域 太宗は突厥と吐番を服属させ、

高宗は西突厥を滅亡させ、唐の領域を漢代よりさらに広くした」(Ⅲアジア世界の拡大と東西交流、01 東アジア世界の形成と拡大、2 隋・唐の統一帝国、唐の発展、p. 80)「新羅と渤海は先進的な唐の文化を積極的に受容し、中国、日本とともに東アジア文化圏を形成することになった」(Ⅲアジア世界の拡大と東西交流、01 東アジア世界の形成と拡大、5 東北アジア社会の発展、わが国の発展、p. 96)「隋・唐代に確立した科挙制は漢字、儒教、仏教とともに周辺地域に影響を与え、これにより東アジア文化圏を形成することができた」(Ⅲアジア世界の拡大と東西交流、04 東西文化の交流、単元の仕上げ、p. 118)「中華思想の意味とその影響として一漢族は、…周辺の民族に対する文化優越意識を持っていた。…中国中心の秩序に包含し平和外交を推進しようとした。明は周辺国の主権者を承認する冊封の手続きを通じて宗主権を行使した。…朝貢関係を通じて中国は周辺国に政治的影響力を行使することができ、周辺国は王権の確立と国家の安全をはかり、中国の先進文化を受容することができた」(Ⅴアジア社会の成熟、01 明・清代の中国社会、1 明・清の成立と発展、探究活動、p. 166) →①均田制・租庸調制・府兵制・律令・三省六部あり(略)、②わが国をはじめとする東アジア諸国(不明瞭な表現)、③なし、④なし、⑤唐文人一覧あり(略)、李白・杜甫・孔穎達・玄奘・義浄、⑥渤海・新羅・日本、⑦科挙制・儒教・漢字・仏教が周辺地域に影響を与え東アジア文化圏を形成、かつ冊封・朝貢関係を通じて中国の文化を受け入れた地域、⑧なし、⑨なし、⑩「わが国をはじめとする東アジア諸国」という記述の出現。

二、「植民地」記述に関する資料

1. 中学校 社会科教科書

資料(第七次教育課程のみ)

(1) 2001・7・26 教育人的資源部検定、金フェモク他7名著『中学校 社会2』同和社、2002・3・1・初版、2007・3・1・六版

「結局、世界史の流れに柔軟に対処できなかった中国と朝鮮は、列強の侵略の前に無気力に崩れた」(Ⅲアジア社会の変化と近代的成長、1 東アジアの近代的成長、1 アヘン、中国を崩壊させる、p. 80)

「…日本は、…続いて大陸侵略の足がかりにするため、朝鮮の主権を侵奪した」(Ⅲアジア社会の変化と近代的成長、1 東アジアの近代的成長、3 日本近代化の光と影、「日本の対外侵略」、p. 87)

「西欧列強が東南アジアを植民地化したが、…結局は彼らの保護国や植民地に転落してしまった」(Ⅲアジア社会の変化と近代的成長、2 インドと東南アジアの近代化運動、2 貿易、植民地、そして民族運動、「東南アジアの民族運動」、p. 95) → **東南アジアは転落**

(2) 2001・7・26 教育人的資源部検定、李ジンソク他11名著『中学校社会2』志学社、2002・3・1・初版、2007・3・1・二版

「…日本は…続いて朝鮮の国権を奪い(1910)、本格的に大陸侵略に乗り出した」(Ⅲアジア社会の変化と近代的成長、1 東アジアの近代的成長、3 日本の近代化運動、「日本が大陸侵略に乗り出す」、p. 82)

「19 世紀中葉、インドは事実上英国の支配下に置かれることになり、英国の食料および原料供給地、商品市場に転落した」(Ⅲアジア社会の変化と近代的成長、2 インドと東南アジアの近代化運動、1 インドの民族運動、「インドが英国の植民地になる」、p. 85)→**インドは転落**

「しかし、英国とロシアの干渉により挫折し、イランは事実上主権を喪失することになった」(Ⅲアジア社会の変化と近代的成長、3 西アジアの近代化運動、2 アラブ世界とイランの近代化運動、「イランで近代化運動がおこる」、p. 92)→**イランは主権喪失**

(3) 2001・7・26 教育人的資源部検定、黄ヂェギ他 10 名著『中学校 社会 2』、教学社、2002・3・1・初版、2007・3・1・六版

「以後、日露戦争で勝利した日本は朝鮮の国権を奪い、本格的に大陸侵略の道へ乗り出した」(Ⅲアジア社会の変化と近代的成長、1 東アジアの近代的成長、3 日本の近代化運動、「日本の体外侵略過程は?」、p. 83)

「その過程で東南アジアの諸国は次第にヨーロッパ強大国の原料供給地と植民地に転落した」(Ⅲアジア社会の変化と近代的成長、2 インドと東南・西アジアの近代と運動、2 東南アジアの民族・近代化運動、「西洋強大国の進出で東南アジアはどのように変化したか?」、p. 86)→**東南アジアは転落**

2. 高等学校 世界史教科書

資料

●第一次教育課程期 (1955—1963)

(1) 曹佐鎬著『中等世界史』英志文化社、1959・3・25

「戦争は日本の勝利となり下関条約が結ばれ朝鮮の独立が認められた。かくして朝鮮は中国の支配を脱して、独立し、大韓と呼ばれたが(1897)、…日本はこの戦争で勝利を得るや韓日協約を結び外交権を奪った。かくして韓国はついに 1910 年日本に合邦され彼らの植民地となった」(単元近代の東洋、わが国と日本、pp. 252 - 253)→**朝鮮は日本の戦勝により独立したという記述。**

●第二次教育課程期 (1963—1973)

(2) 文教部検定済、金聲近著『高等世界史』高等学校 2、3 学年用、教友社、1962・1・10

「朝鮮は再び侵略を受け(丙子胡乱)、半属国になってしまった(1637)」(第Ⅲ篇近代世界、第 4 章アジアの停滞、第 3 節中国以外のアジアの形勢、李祖朝鮮、p. 221)→**清の半属国だったことを認める記述。**

「以後英国は鉄道を敷設し、教育を起こし、インドの開花が促進されたが、その反面インドは英国工業の原料生産と商品市場として植民地化し原住民の苦痛はひどくなるばかりだ

った。…イギリスは、…ビルマを合邦し(1886)、マレー半島まで勢力を伸ばした」(第IV篇現代世界、第1章帝国主義と第一次世界大戦、第3節アジアの植民地化と中華民国の成立、インドの植民地化、p. 232)「清・露両国を退けた後、日本は朝鮮に保護条約を強要し、先ず外交権を奪取し(1905)、続いて合邦条約を強制し、朝鮮の主権を略奪した」(同篇同章同節、日露戦争、p. 236)→著者は早稲田大学史学科西洋史専攻卒、ソウル大学校師範大学教授。本書は第二期のために書かれたもの、と記されている。

→日韓の条約は強制的だったという記述。なお、国際法上強制か否かが問題になるのは、第一次大戦以降のことである。また主権略奪とあるが、当時の朝鮮の主権は王権であったため、純宗の死=王宮の消滅(1926年)と共に放棄されたものとみなされる。

(3) 文教部検定済、趙義ソル著『高等世界史』1964年版、章旺社、1964・1・10

「東インド会社が解散するのと同時にインドは英国政府の直接支配を受けることになり、1877年ビクトリア女王はインド女帝の称号を持ち英領インド帝国であると宣布した。…全ビルマを英領インド帝国に所属させた(1886)」(第3章近世世界の成立と発展、第5節アジアの近代化、インド帝国の成立・東南アジアの近代化、pp. 210 - 211)「この戦争が終わった後、韓国は日本の保護国となったが、1910年ついに日本に合邦され、日本の総督政治の支配を受けることになった」(同章同節、李氏王朝、p. 214)→韓国は日本の保護国だったという記述。

(4) 洪スンチャン『人文系高等学校世界史』蛍雪出版社、1970・1・10

「戦後日本は朝鮮に対する支配的地位を確固とし、1910年屈辱的な日本との合邦を成立させた。かくして朝鮮は半万年の歴史を持ったまま日本の支配下に入ってしまった」(第III篇近代世界の成立と発展、第6章ヨーロッパ列強のアジア進出、5日本と朝鮮、pp. 222)「英国は…エジプトを保護国にした。…フランスは19世紀前半アルジェリアを占領し、1881年チュニジアを保護国にし、…再び1912年にはモロッコを保護国にすることに成功した」(第IV篇現代世界の展開、第1章帝国主義の成立、1列強の世界政策、(2)アフリカ分割)→著者は早稲田大学卒、嶺南大学校教授。

(5) 蔡ヒスン・ノミョンシク著『人文系高等学校世界史』法文社、1970・1・10

「ベトナム国は、…フランスとの戦争後保護国になった。…ところで19世紀中葉以降周辺諸国が英国とフランスの植民地に変わっていったため、その余波はタイにまで押し寄せ、…タイの属国だったカンボジアとラオスの大部分をフランスに奪われた」(同篇、第8章近代列強によるアジアの受難、フランスのインドシナ経営、タイの独立維持、pp. 212-213)「日本はこの戦争に勝利し下関条約で遼東半島と台湾を得て、朝鮮の独立を確認することにより朝鮮に対する侵略の第一歩を踏み出すことになった」(同篇同章、3日本の近代化とアジア侵略、日本の大陸進出と朝鮮、pp. 220)→日本は戦勝し朝鮮の独立を確認したという記述。

●第二次・第三次教育課程(検定が第二次期で、出版は第三次期)

(6) 文教部検定、1968・1・11、第98号、申ソクホ・朴ソンス著『人文系高等学校世界史』光明出版社、1973・1・10

「このようにすべての富は本国の産業革命に寄与し、産業革命が進行するにつれてインドは英国綿織物の重要市場になった」(Ⅲ近世世界の生活、8 ヨーロッパ列強の植民活動とアジアの受難、p. 202) 「しかしベトナムは清に服属し儒教文化を固守しフランス宣教師の布教と通商を禁じた…1844 年の清仏戦争(1844~1885)により、フランスは宗主国清をしてフランスのベトナム保護権を承認させた(1887)」(同Ⅲ同 8、フランスのインドシナ進出、pp. 204-205) 「戦争中にすでに韓日議定書と第一次韓日協約を強制的に締結した日本は、続いて 1905 年 9 月乙巳条約を強制的に締結し、義兵戦争など各地で相次いでおこる韓国民の強烈なる抗日闘争を武力で鎮圧し、1910 年 8 月ついに大韓帝国を合邦した」(Ⅳ現代世界の生活、1 帝国主義勢力の発展、日露戦争、pp. 227-228)

(7) 文教部検定、1968・1・11、第 96 号、金サンギ・関ソッコン著『人文系高等学校世界史』乙酉文化社、1974・1・10

「このように我々が現代の立場から世界史を理解するということは、長久なる人類の歴史を通じ、人類が創造し発展させた偉大な文化遺産を理解し、摂取するということを意味し、それは我々の精神を豊かにしてくれるであろうし、人間と社会に対する正しい認識と新しい文化発展の貴重な土台となるであろう」(前書き pp. 1-2)

「かくして 19 世紀後半英国はインド洋を支配する巨大な植民地を建設した」(単元Ⅲ近世の世界と生活、第 6 章ヨーロッパ世界の進出とアジアの受難、英国のインド経略、p. 209)

「かくして日本は露骨なる侵略を敢行し、1905 年わが国にいわゆる乙巳条約を強要し次第に内政と外交に干渉したが 1910 年遂に完全にわが国を合邦してしまった」(単元Ⅳ現代の世界と生活、第 1 章帝国主義と第一次世界大戦、日本の台頭、pp. 229)

(8) 文教部検定、1968・1・11、第 99 号、趙ジュアホ著『人文系高等学校世界史』一潮閣、1975・1・10

「その後ビルマは西方インドに侵入され英国勢力と前後三回も衝突したが、敗れてインドの 1 州になってしまった」(同 3 同 4 章、3 東南アジアの各国、朝鮮・蒙古・チベット・安南・タイ・ビルマ・日本、p. 176) 「一方 874 年に台湾に出兵し琉球を占領し、1876 年にはわが国と丙子修好条約を結んだ。かくして日本はアジアでもっとも最初の近代国家として、そして帝国主義的侵略国家として成長をはじめた」(同 3、第 9 章アジアの受難、2 日本の近代化とわが国、明治維新、pp. 219-220) 「日本の無条件降伏によりわが国は 36 年間の束縛から脱し独立した。…1948 年には南韓に大韓民国が樹立され、北韓には共産傀儡政権が建てられ互いに対立した。北韓傀儡は 1955 年 6 月 25 日に不法に南進し 6・25 事件(朝鮮戦争のこと一訳者)が起きた。アメリカをはじめとする国連各国は大韓民国を援助し、ソ連と中国は北韓傀儡を援助し、終戦直後にはじまった冷戦が熱戦と化した」(4 現代世界の生活、第 5 章弱小民族の自覚と独立、わが国、pp. 268) →著者は東京帝国大学東洋史学科卒、成均館大学校文理科大学教授。→近代日本は「帝国主義的侵略国家」と規定された。「弱小民族の自覚と独立、わが国」という章・項目立てが特徴的。

(9) 文教部検定、1968・1・11、第 95 号、崔ジョンヒ著『人文系高等学校新しい世界史』思

潮社、1976・1・10

「事実我々は歴史を勉強することは単純に過去の事実を知るためではなく祖国のための民族史の主体としての透徹した自我意識と民族的使命感を深くし、ひいては協同運命体の世界人として与えられた任務が何であるかを見出すところにその理由があるのである。…確固たる歴史的思考力に立脚した世界史的視野からいっそう我々の立場を新たに民族中興の歴史的使命を完遂しなければならない」（前書き）「以後 1897 年に成立した大韓帝国も日露戦争により意気揚々とした日本に外交権を剥奪され(1905)、ついに 1910 年に日本帝国主義の治下に入るようになった」（IV 現代世界の生活、第 1 章帝国主義勢力の発展、4 19 世紀末の国際関係、朝鮮の状況、pp. 223）「1905 年に強制的に乙子条約を結び我々の主権を強奪した日本は、1907 年のハグ密使事件を契機として野望を露骨化し、1910 年にはついに一般的な韓日合邦を成立させ、これからわが民族は苦難の植民地生活に入ってしまった」（同 IV、第 2 章第一次世界大戦と戦後の世界、6 民族運動の発展、(4) わが国、pp. 244）

●第三次教育課程期（1973—1981）

(10) 文教部著作、韓国教育開発院『高等学校世界史』大韓教科書株式会社、1979・3・1

「アジアやヨーロッパの過去がどのようなようであり、それがどのように互いの連環を結びつつ今日の世界を形成しているのかを調べることは、まさに今日の我々が処している世界史的な連環を正しく認識する道である」（前書き、p. 1）

「このように日本は清国及びロシアと 2 回の戦争を行い、朝鮮からの各種権益の保障を受けて地位を固めた後、ついに 1905 年乙子条約を結び朝鮮侵略を事実上完結させ、1910 年には合邦を強行した」（IV 東洋社会の変遷、2 近代化運動、(2) 日本の近代化、大陸侵略の論理、p. 240）

●第四次教育課程期（1981—1987）

(11) 文教部検定、1983・7・29、李ミンホ・申スンハ著『高等学校世界史』大韓出版社、1984・3・1

「以後日本は朝鮮の外交権を強奪し、軍隊を解散させ朝鮮は名目上の独立国としては転落し、ついに 1910 年には主権さえ奪われ日本の植民地になった。…以後日本の侵略が加重されるにつれこれに対抗する義兵活動等愛国啓蒙運動が更に活発に展開された。…そのような運動を通じて後日粘り強い抗日独立運動を展開することの出来る民族的力量が養われた」（VI アジアの近代化、4 その他アジア各国の近代化、(1) 韓国の試練と覚醒、韓国の試練・近代化と運動、pp. 226-227）「フィリピンは、…独立を宣言し共和国憲法を公布したが(1898)アメリカはこれを認定せず独立運動を武力で制圧しアメリカの植民地となった」（同 IV 同 4、(2) インドと東南アジア、フィリピン、p. 229）「このとき英国は、…反トルコ運動を機会に単独出兵し暴動を鎮圧しエジプトを占領した(1882)」（同 IV 同 4、(2) インドと東南アジア、エジプトの運命、p. 233）→朝鮮は「名目上の独立国だった」とされた。

(12) 文教部検定、1983・7・29、閔ソッコン・羅鐘一・尹セ Chol 著『高等学校世界史』教学社、1984・3・1

「インドを完全に手に入れた英国はネパールを征服しアフガニスタンを保護国化した。またフランスのインドシナ経営に対抗しビルマを占領しインド帝国に編入した(1886)」(VIアジアの近代化、2 西洋勢力のアジア進出、(2)ヨーロッパ人のアジア経営、インドの植民地化、p. 198)「フィリピンは、…19 世紀末独立運動が活発で、スペインの支配が弱化するなかアメリカ・スペイン戦争(1892)の結果アメリカ領になった」(同VI同2同(2)、そのほかのアジア太平洋地域支配、p. 200)「日本は日清・日露の二度の戦争で朝鮮において各種利権を保障されついに乙巳条約を強要し(1905)、朝鮮侵略を積極化させついにわが国の主権を強制的に奪った(1910)」(同VI、3 中国と日本の近代化、(2)日本の近代化、日本の大陸侵略、p. 212)

(13) 文教部検定、1983・7・29、呉インソク・金ギョホ著『高等学校世界史』東亜出版社、1984・3・1

「日本はこの戦争でも勝利し、ポーツマス条約を締結し、満州に対する権益を委譲され、朝鮮での優位を確保することにより、1910 年には朝鮮の主権を強奪し、韓半島を彼らの大陸侵略の基地と見なすことになった」(VIアジアの近代化、3 中国と日本の近代化、日清・日露戦争、p. 230)「セポイの蜂起を鎮圧した後、英国はムガル帝国を滅亡させ、東インド会社を解散し、英国政府が直接全インドを支配することになり、1877 年にはビクトリア女王がインド皇帝を兼ね、英領インド帝国を樹立した」(同VI、4 その他アジア各国の近代化、(3) インドの近代化の動き、初期の民族運動、p. 234)「しかし、英国の牽制でモハメトの支配は名目上のみで、エジプトは領土が限られるなど、事実上英国の支配を受けることになった」(同IV、同4、(4) 西アジア各国の近代化、エジプト、p. 240)

●第五次教育課程 (1987—1992)

(14) 文教部検定、1989・8・19、金キジュ・金ウォンス・張テハン著『高等学校世界史』章源社、1990・3・1

「日清戦争で獲得した朝鮮に対する優先権を守るため、日本は英国と同盟を締結し(1902)、つづいて起こった日露戦争にも勝利した。戦争後、日本は朝鮮と南満州を足場に大陸侵略を断行し、朝鮮の内政にも干渉し、利権を剥奪し、ついに朝鮮を併合した」(VI近代アジア社会の発展、2 東アジア各国の近代的成長、3 日本の近代化とアジア侵略、清・ロシア・日本の角逐と朝鮮侵奪、p. 230)

(15) 文教部検定、1989・8・19、申チェシク・洪ソンピョ著『高等学校世界史』宝晋齋、1990・3・1

「日本は日清戦争後、占有した朝鮮に対する利権を守るため、当時インドと中国でロシアと張り合っていた英国と日英同盟を締結し(1902)。1904 年に日露戦争を起こした。戦争で優勢な日本はアメリカの仲裁でポーツマス条約を結び遼東半島と南満州鉄道の利権を占有した。…しかし日本は帝国主義列強よりもさらに残忍にアジア各国を蹂躪し、20 世紀の歴史を悲劇で飾った第二次世界大戦を起こした。このような悲劇は日本の朝鮮強占ではじまり、これは隣の国との友好関係を破壊したところにその原因がある」(VI近代アジア社会の

発展、2 東アジア各国の近代的成長、(4)日本の近代的成長と明治維新、日露戦争と朝鮮強占、pp. 222-223)「英国はムガル皇帝を追放し、インドを植民地化し、ビクトリア女王が皇帝を兼ねた。その後英国はネパールを征服しアフガニスタンを保護国にした。…フランスは清仏戦争に勝った後ベトナムとカンボジアを併せフランス領インドシナを建て(1887)、後にラオスまで追加した」(同VI、3 その他のアジア各国の近代的成長、(1)西南アジア社会の変遷とヨーロッパの進出、インドの植民地化、フランスのインドシナ侵略、pp. 226-227)→「日本は(中略)第二次世界大戦を起こした」、その悲劇の起源は「朝鮮強占」だったという記述。第二次世界大戦は、1939年にポーランドに侵攻したドイツに対し、英仏が宣戦して始まるというのが史実。

(16) 文教部検定、1989・8・19、チドンシク・閔ソンギ・張サン Chol 著『高等学校世界史』金星教科書、1990・3・1

「この戦争で勝利した日本は、ポーツマス条約(1905)で日本の朝鮮における優先権を認められたほかに、旅順・大連と南満州鉄道の利権ならびにサハリンの割譲を受けた。そして、直ちにつづいて朝鮮の主権さえ奪った(1910)」(VI近代アジア社会の発展、2 東アジア各国の近代的成長、(4)朝鮮の開国と日本の近代化、日本の対外拡張、p. 215)「英国は…1877年にはビクトリア女王がインド皇帝を兼ねるインド帝国を成立させ、インドを完全に植民地化した」(同VI、3 その他のアジア各国の近代的成長、(2)インド帝国の近代的成長、p. 224)「フランスは…コーチシナ全体を直轄植民地にし、ついに上の条約(サイゴン条約のこと一訳者)によりベトナムを保護国にした」(同VI、同3、(3)東南アジア帝国の近代的成長、ベトナムの植民地化、p. 226)

●第六次教育課程(1992—1998)

(17) 1995・9・30 教育人的資源部検定、呉インソク・金ギョホ著『高等学校世界史』斗山、1996・3・1 初版、2002・3・1・二版

「日本はこの戦争でも勝利しポーツマス条約を締結し満州に対する権益の委譲を受け、朝鮮での優位を確保した。さらに朝鮮の主権を強奪し(1910)、韓半島を彼らの大陸侵略の基地とした」(VIアジア社会の変化と近代的成長、3 東アジアの近代的成長、(3)日本の改革と帝国主義の形成、対外侵略の拡大、p. 257)「…英国は、…東アジア会社を解散し、インドを直轄植民地とし、その後ビクトリア女王がインドの皇帝を兼ねる英領インド帝国を樹立した(1877)。…ミャンマーをインド帝国に併合した(1886)」(同VI、4 インドと東南アジアの近代的成長、(1)インドの民族運動と近代的成長、インドの没落、p. 259)「…フランスは、…ベトナムを完全に保護国にした(1883)」(同VI、同4、(2)東南アジア各国の近代的成長、インドシナ半島、p. 261)

(18) 1995・9・30 教育人的資源部検定、許スンイル・李チュヨン・崔カプスン著『高等学校世界史』志学社、1996・3・1・初版、2002・3・1・二版

「以後日本は朝鮮侵略に拍車をかけ、結局主権を奪取した(1910)」(VIアジア社会の変化と近代的成長、3 東アジアの近代的成長、(3)日本の改革と帝国主義の形成、帝国主義への

進展、p. 278)「フランスがインドシナを占領するやミャンマーをインド帝国に編入した(1886)。インドは英国の供給地及び商品市場として重要な植民地だった」(同VI、4 インドと東南アジアの近代的成長、(1)インドの民族運動と近代的成長、インドの植民地化、英国の植民支配、p. 280)「…フィリピンは、…米西戦争(1898)を経てアメリカの支配を受けることとなった」(同VI、同4、(2)東南アジア各国の近代的成長、フィリピンの植民地化と近代的成長、p. 285)「…エジプトは今やオスマン帝国の支配から脱し、英国の支配を受けることになった」(同VI、5 西アジアの近代的成長、(4)西アジア各国の覚醒、エジプトの民族運動、p. 289)

●第七次教育課程(1998—)

(19) 2002. 7. 30 教育人的資源部検定、金ウンスク・チョハヌク・朱ミョン Chol・崔チュンヂェ・南ハンホ著『高等学校 世界史』教学社、2003年3月1日初版、2007年3月1日五版

「日本は続いて朝鮮の主権を強奪することにより、帝国主義の道を歩くことになった(1910年)」(VIIアジア世界の近代的発展、1 東アジアの近代化運動、(4)日本の近代国家成立と帝国主義への転換、日本の帝国主義化、p. 276)

「1、日本の近代化過程で表れた否定的な面を探してみよう」(VIIアジア世界の近代的発展、1 東アジアの近代化運動、(4)日本の近代国家成立と帝国主義への転換、「考えてみること日本の近代化、果たして成功した近代化なのか」p. 276)

(20) 2002. 7. 30 教育人的資源部検定、呉グムソン・ユギョンジュン・林ファヨン・カンムンファン・チョンヨン著『高等学校 世界史』金星出版社 2003・3・1・初版、2007・3・1・五版

「日本は…江華島条約を強要し朝鮮を開港させた後に日本人の治外法権と関税撤廃などの許諾を得た。…そしてその余勢を駆って朝鮮の主権さえ奪い大陸侵略の基地とみなした」(7アジア世界の近代的発展、第1章東アジアの近代化運動、主題4日本の開港と近代化、帝国主義の後追いで、p. 236) →侵略者の日本が朝鮮の許諾を得たこととなった。

「ミャンマーはパガン王朝が元に滅ぼされた後、長い間分裂していたが、タウンゲー王朝が統一した。その後をついでアラウンパヤ王朝(1752～1855)は清の侵略を退け繁栄を享受したが、後に英国に敗れ、インドの一州に転落した」(5アジア社会の成熟、第3章ムガル帝国と東南アジアの発展、主題6東南アジアの発展、アラールに帰依した東南アジア東西地域、p. 169) →ミャンマーは転落

「英国はインド人から税金をたくさん取り立て綿花とアヘンを強制的に栽培させ英国産の安い織物を売った。このためインドは英国の原料供給地と商品市場に転落してしまった」(7アジア世界の近代的発展、第2章インドと東南アジアの近代的成長、主題5インドの民族運動と近代的成長、民間会社を先立たせた英国のインド侵略、p. 238) →インドは転落

・「韓国は第二次世界大戦後光復を迎えたが、米・ソ両国の南北分割占領と軍政実施を契機として南と北に体制を異にする2つの政府が樹立された」(9戦後世界の発展、第1章冷戦

体制の展開と変化、主題3 戦後のアジア・アフリカ、アジア・アフリカの新しい誕生、p. 292) →朝鮮は分断といわない「ドイツは東西に分断され、東独はソ連が、西独は米国・英国・フランスが、ベルリンはこれら四ヶ国が共同で管理した」(9 戦後世界の発展、第1章冷戦体制の展開と変化、主題1 戦後の国際秩序の模索、平和のための努力、p. 288) →ドイツは分断という

(21) 2002・7・30 教育人的資源部検定、呉チャンフン・張チョングン・張ドゥホ・朴チャソンソク著『高等学校 世界史』志学社 2003・3・1・初版、2007・3・1・二版

「日露戦争後、朝鮮は乙巳条約で日本に外交権を奪われ、1910 年には主権さえ強奪され、日帝の植民地支配を受けることとなった」(VII アジア社会の近代的発展、01 東アジアの近代化運動、4 わが国の開港と近代化、近代化の試練、p. 270)

「フィリピンはアメリカの植民地支配を受けることとなった」(VII アジア社会の近代的発展、02 インドと東南アジアの近代的成長、2 東南アジアの植民地化と近代的成長、東南アジアの近代化運動、p. 275) →フィリピンは植民地支配「エジプトは英国の保護国に転落した」 →エジプトは転落(VII アジア社会の近代的発展、03 西アジアの民族運動、2 西アジア各国の民族運動、エジプトの改革、p. 279)

(22) 2002・7・30 教育人的資源部検定、金ハンジョン他5名著『高等学校 韓国近・現代史』金星出版社 2003・3・1・初版、2007・3・1・五版

「第二次世界大戦後フランスではナチ協力者として150~200 万名が調査された。そのうち3~4 万名が裁判を受け拘禁され、1 万余名が死刑宣告を受け、数千名が実際に死刑に処せられた。この作業を指揮したドゴールは、反ナチ勢力に属する人物ならば共産主義者でも手を握った。この反ナチ連合が今日のフランス民主主義の統合の基礎となった。反面、大韓民国では1949 年9 月、反民特委が解散するまで扱われた事件は682 件に過ぎなかった。…しかしこれらさえ、1950 年に再審請求や減刑、そして刑執行停止などですべて自由の身になった。このような光復以後に親日派を思うように清算できなかった過誤は、我が現代史を締め付ける馬勒となっている」(4 現代社会の発展、1 章光復と大韓民国の樹立、主題3 大韓民国の樹立と分断、「フランスのナチ協力者と韓国の反民族行為者の処罰」p. 266)

(23) 2002・7・30 教育人的資源部検定、朱鎮五他4名著『高等学校 韓国近・現代史』中央教育振興研究所、2003・3・1・初版、2007・3・1・四版

「我が民族に対する日帝の支配が他の国に比していっそう残酷だった理由一同じ文化圏の中で支配・被支配が成立したことは他の植民地では見出すのが難しいことだよ。例えば、イギリスのインド支配とフランスのインドシナ支配などは互いに違う文化圏の間に植民支配関係が形成されたじゃない。ところが韓国は日本と同じ文化圏の中で、長い歴史を誇ってきたため、日本の支配にいっそう自尊心が傷つくことになったのさ。さらに韓国人は昔日本に先進文化まで伝えてやった文化民族という自尊心(韓国語ではメンツのことを自尊心[チャジョンシム])という一訳者)がとても大きかったので、日本の支配に対する抵抗が強くなるしかなかったのさ」(III 民族独立運動の展開、1 日帝の侵略と民族の受難、(3))

民族の受難、読み物資料、p. 161)

三、附録

1. マルクス唯物史観による資本主義萌芽論

資料（第七次教育課程のみ）

(1) 2002・12・12 教育人的資源部検定、金フンス他 5 名著『高等学校 韓国近・現代史』天才教育、2004・3・1・初版、2007・3・1・四版

「18 世紀を前後し、朝鮮社会では商品貨幣経済が発達し、資本主義的経済の要素が芽吹いていて、…自生的な近代化の動きが表れ始めていた。…しかし、帝国主義列強の侵略と干渉の中で我が民族の自主的近代化と国権守護の努力は挫折し、結局日帝に国権を強奪された」（Ⅰ韓国近・現代史の理解、「単元を開いて」、p. 9）

(2) 2002・12・12 教育人的資源部、金ジョンス他 3 名著『高等学校 韓国近・現代史』法文社、2004・3・1・初版、2007・3・1・四版

「朝鮮後期中世の身分秩序が動揺するなか、商品貨幣経済が発達し、近代資本主義の芽が育つなど、自主的近代化の姿が現れた。しかし、…日帝に国権を強奪された。…その後、我が民族は 8, 15 光復を迎えたが、国土は南北に分断され、朝鮮戦争が起るなど民族の試練を経験することになった。…このような中でも我が民族は、民主主義を発展させ驚くべき経済成長を実現させた。…願わくは、「韓国近・現代史」科目を通じ民族史に対する矜持を持つ一方、正しい歴史の認識を持ち…」（前書き）

(3) 2002・7・30 教育人的資源部検定、金グァンナム他 4 名著『高等学校 韓国近・現代史』斗山、2004・3・1・初版、2007・3・1・四版

「朝鮮後期社会では、内部的に資本主義的経済要素が芽吹き、平等社会を志向する動きが様々な面であらわれていた。…しかし近代社会への主体的発展が挫折し、帝国主義列強の侵略で近代国家の樹立に失敗し、わが国は日帝の植民地に転落した。…8, 15 光復直後に民族の念願である統一政府を樹立するのに失敗し、朝鮮戦争を経て分断が固定化し、南北間の不信と対立もいっそう深化した。このような状況を克服するため、近頃では南北対話を通じた和解と協力体制の構築に努力を傾けている」（Ⅰ韓国近・現代史の理解、「単元概観」p. 9）

2. 興味深い記述

資料（第七次教育課程のみ）

(1) 『初等学校 社会 6-2』教育人的資源部、2002・9・1・初版、2007・9・1・六刷

「わが国が長い歴史と立派な文化と持つ国であることを知っている人もいるが、大部分の人々は韓国をよく知らない。そこでわが国を知らせることに、わが国民皆が力を入れなければならない。…世界の様々な国は各々独特の国民精神を持っている。アメリカ人は開拓

精神を誇らしく思い、日本人は代を継いで家業を発展させていく職人精神をおしたてている。また中国人は長い歴史と広大な領土ではじまった大陸的気質を持っている。それならば、外国人たちは我が民族のどのような点を見習うに値すると考えるのだろうか。驚くべきことに次の文章に見るように多くの外国人たちは、わが国の人々が父母に孝行で家族を大切にすることを、世界に誇るに値することだと思っている。20世紀、英国の有名な歴史学者のアーノルド・トインビー教授は、ロンドンで韓国人の教授に会ったとき、孝を世界に植えてくださいと頼み、次のような言葉を残している。『韓国の美しい風習である孝思想、敬老思想を西ヨーロッパに伝えてください。精神文化革命運動を繰り広げてください。私も積極的にお手伝いします』…わが国を代表するに値する文化遺産としては孝思想のような精神文化以外にも多くのものを数えることが出来る。そのなかで、最も科学的な文字として認められているハングル、世界で最も古い金属活字を使った印刷術、世界の人々の食べるものとして有名なキムチ、宗主国の矜持を守っているテコンドー、石窟庵、宗廟、昌徳宮などの世界遺産が代表的なものといえることができる」（3新しい世界で我々がすべきこと、1世界の中の大韓民国、1誇らしい我が文化、pp. 112～115）→孝行・ハングル・金属活字・キムチ・テコンドー・石窟庵（1995年ユネスコ世界遺産登録）・宗廟（1995年同登録）・昌徳宮（1997年同登録）などを誇っている。

(2) 2002・7・30 教育人的資源部検定、韓 Cholホ他 5 名著『高等学校 韓国近・現代史』大韓教科書、2003・3・1・初版、2007・3・1・五版

「西洋人の文化的優越主義—文明という意味の英語 ‘civilization’ には ‘キリスト教に改宗する’ という意味が含まれているという。左側の二つの映画は性格が異なるが、文明人を自称するヨーロッパ人たちの文化的優越主義が底にあるという点で同じである。‘ミッション’ はカトリックの宣教活動がヨーロッパ人の侵略に利用されたことを反省する観点から描写されている。一方、‘ポカホンタス’ はヨーロッパの青年とアメリカ原住民乙女の愛の物語を侵略者の観点から眺めている」（Ⅱ近代社会の展開、Ⅱ-1 外勢の侵略的接近と開港、1 19 世紀後半の世界、Ⅰ-1 帝国主義の台頭、資料 6、p. 29）

(3) 2002・7・30 教育人的資源部検定、韓 Cholホ他 5 名著『高等学校 韓国近・現代史』大韓教科書、2003・3・1・初版、2007・3・1・五版

「退役日本軍の神社参拝—2001 年 8 月 15 日、日帝の侵略戦争に参加した退役海軍兵士たちが ‘旭日昇天旗’ をおし立て、戦犯たちの位牌がある東京靖国神社に向かっている。その旗は日帝の海軍が使用したものであり、日本帝国主義の象徴として認識されている」（Ⅲ民族独立運動の展開、Ⅲ-1 日帝の侵略と民族の受難、4 経済収奪の深化、4-3 スプーンまで奪われ戦場に追い立てられる、p. 150）→なお、靖国神社に位牌は存在しない。

(4) 2002・7・30 教育人的資源部検定、金ウンスク・チョハヌク・朱ミョン Chol・崔チュンジェ・南ハンホ著『高等学校 世界史』教学社、2003・3・1・初版、2007・3・1・五版

「我々の歴史を正しく見るということは重要なことだ。問題はどのようにすれば我々の歴

史を正しく見られるかという事実だ」(I時間、空間、そして人間、(5)世界史と韓国の歴史、世界史と国史、p. 18)→文意より、韓国語の「正しい歴史の認識 (Olbarun Yoksa Insik)」とは、自分たちの歴史を肯定的に見ようという一種の営為だと思われる。

「サムエル・ハンチントンは彼の著書『文明の衝突』でわが国を中国の文明に包含させている。外国人の目にはわが国の文化が中国と別に差異なく見えるようだ。わが国と中国の文化はどの点が類似し、どの点が差があるのか？」(II文明の夜明けと古代文明、3古代アジア世界、(4)古代東アジア地域、「最初に考えること」p. 52)

(5) 2002・7・30 教育人的資源部、呉チャンフン他3名著『高等学校 世界史』志学社、2003・3・1・初版、2007・3・1・二版

「世界史のなかの韓国史！— 一時蒙古の支配を受けた高麗では支配層の間に蒙古の風習が大いに流行し、今もその遺風が残っている。例えば袖の狭い男子の服と女子の結婚用の冠、銀粧刀、新婦が頬紅をする風習、‘あきんど’‘役人’などの語末に‘チ(赤)’を付ける言語習慣、王の御膳を‘水刺(スラ)’ということなどだ」(IIIアジア世界の拡大と東西交流、01東アジア世界の形成と拡大、4遊牧民族と征服王朝の成立、p. 91) →モンゴルの支配時代は良好に回顧される模様である。

以上